

# 福岡大学医学部同窓会

2004年秋号  
鳥帽子会会報

37  
号

## 第23回鳥帽子会総会



養老孟司先生を囲んで記念撮影

■ 平成15年度 評議員会議事録 7

■ 平成16年度 研究奨励賞選考報告 16

■ 平成17年度 研究奨励賞募集要項 22

## 目 次

・会長挨拶		
福岡大学医学部は挑戦者	高木 忠博	3
・第23回鳥帽子会総会報告	山本 正昭	4
・第12期理事監事と担当業務・支部長名簿		6
・平成15年度評議員会議事録		7
・平成16年度同窓会研究奨励賞選考報告	林 英之	16
・平成16年度研究奨励賞受賞の言葉	小玉 正太礼	17
	藤野 正礼	17
	高山 成吉	17
	高成 崔哉	17
・平成15年度研究奨励賞研究報告	下地 荣壮	18
	新村 英也	18
・平成16年度研究奨励賞研究報告	小玉 正太	19
	高山 成吉	20
	高成 富一	21
・平成17年度研究奨励賞募集要項		22
・平成17年度在外研究援助金募集要項		22
・同窓生交歓 第3回生	田邊 庸一	23
・学生対策行事		
国試激励会	二田 哲博	24
新入生歓迎会	武末 淳	24
M4激励会	占部 嘉男	25
・教室紹介		
内科学第一	高田 徹	26
内科学第二	内松 永	27
・会員寄稿		
父の聴診器	黒岩 宙司	28
おじどり？助教授奮闘記	浅見 豊子	29
ヒューストンより	佐々木 隆光	30
武者修行の勧め	三原 誠	31
・クラス会便り		
10年ぶりの出会い	田村 理子	33
・クラブ生まれて30年		
バレー部生まれて30年	浦田 秀則	34
柔道愛好会30年を迎えて	竹下 盛重・黒岩 大三	35
卓球愛好会創立30周年によせて	森下 哲哉	36
・キャンパス便り		
山九・西医体の総括	上村 徳郎	38
・鳥帽子会資料		
平成15年度収入支出決算 平成15年度残金処分 平成15年度特別会計決算	39	
平成15年度財産目録 平成16年度事業計画	40	
平成16年度収入支出予算	41	
・教育職員人事		41
・医局長医長名簿		42
・誌報		43
・事務局からのご連絡		43
・編集後記		43

## 会長挨拶

# 「福岡大学医学部は挑戦者」

烏帽子会 会長 高木 忠博（1回生）



高木会長

今期も引き続き会長をします。「させて頂く事になりました」と書くのが普通だと思いましたが、敢て「します」と書きましたのは、評議員会で自ら会長職に立候補したからです。

理由は一つです。会長職の責任の所在を明確

にするのと、会長職の「個」の退路を断つと言う、烏帽子会伝統を作りたいが為です。日本式では、皆の賛同を経て推挙されて職に就くと言うのが普通ですが、責任問題が起こった時、日本式では「誰も責任を取らなかった！」、「責任の所在が全く不明！」の問題が必ずという程出てきます。何故でしょうか？ 小生は、責任者に必ず退路が保障されているからだと思います。このシステムの欠点は「責任問題」が必ず宙に浮き、繰り返しますが「そして結果として、誰も責任は取らなかった。」でペコンと頭を一回下げて「スンマッセン！」の一言発言か、何も言わずスルーと辞める事でお終いです。

人間は直接被害を受けませんが、喋らぬ「組織体」は長く暗黙の被害に苦します。ある意味で人に優しい？（今の流行ことば）方法です。責任者には「皆から推薦されたからこの職に付いて仕事をしたのであって、自分から進んで就いたのではありません。」と言う最強弁解カードがチャンと用意されています。この方法では、言葉で発言出来ぬ大切な組織母体が余りに可哀相だと思います。シッカリした組織体在っての人間ではないでしょうか？ 逆と考える人もいるでしょうが・・・。しかし小生は前記の考え方の方が永く組織が存続し、人材を輩出して行く確実な思考方法だと考えます。シッカリした組織体作りの一番の栄養剤は、良かれ悪しかれ過程が明確な「結果」だと思います。これに

は歴史と言う名の遡れる時間のオプションが必ず付いています。ですから後輩はこの結果を元に不足部分や失敗を解析し、次の計画に確実に利用出来る様になります。この経験の明瞭な蓄積は危機管理技術＝インテリジェンスの発達を促し、経験が必ず生かされる道が開かれます。小生はこの結果主義論の良い所は、問題解決スピードが速くなり、「先送り病」の発病が予防出来る事だと思います。過程が明確な結果であれば評価作業がやり易くなり、組織体としてのskillが確実に身に付き、次世代に具体的な伝承が出来ます。伝統も出来ます。ですからこの方法では同じ失敗の反復が無くなり、歴史＝時間を大切にする精神も同時に養われて、「進歩」と言う美味しい果実も確実に獲得して行けると思っています。会長職と言うのは、この時間経過の中で烏帽子会に明確に伝承出来る評価結果を作り、伝統を定着させる仕事だとも思います。

医学部同窓会とは何か？の問いは永遠の命題でしょう。皆さんと考えておられる意見は全て的を得た本当の事だと思います。しかしそれを実現、実行する為に是非とも必要な問い合わせがあると思います。それは「・でどうする？」（SO WHAT?）です。これが明快でないと、「行動力」発揮の為の馬力と「結果」が明確に発生しない様に思うのです。そしてその実現に情熱を永く燃え滾らせる源は何なのか？を任期中に発見するのも会長職の仕事の様に思います。自分にそれを任期中常に意識させる為の方法として立候補を選択しました。会長職の心の中に、「私」が絶対に発生しない様にする為の歯止めの意味もあります。小生も人の子で百八個の煩惱の塊ですから、これ位の人間リスク管理は必要でしょう。小生は次の世代の烏帽子会の会長職に付いた人間が、「公」の精神で事業を遂行して行く事の醍醐味を感じられる種を作るのが我々世代の仕事だと思っています。

我々福大人は本当に感動する人間、感動する事を知る人間になって欲しいと思います。感動する事を知ったら、その次には何かを生み出そうと言う建設的な力が自然に湧いてくると思っています。福岡大学医学部はマダマダ挑戦者です。挑戦者に無理という言葉はありません。大学と共に表裏一体となって福岡大学医学部と言う挑戦者=巨大ベンチャー組織の絶対的応援団として存在する、全国何処にも類を見ない独創的組織を作り、堅実で着実な進化を遂げる上質な同窓会組織を作つて行こうと思います。烏帽子会理事、評議員一同一丸となって頑張ります。

## 総会報告

# 第23回烏帽子会総会報告

第23回 烏帽子会総会 実行委員代表

山本正昭（7回生）



第23回 烏帽子会  
総会を平成16年7  
月10日に開催いた  
しました。多数の会  
員の皆様に出席して  
いただき、また皆様  
のご協力により盛会  
裏に終えることができ、誠にありがとうございました。

同窓会総会が滞りなく行われた後に、養老孟司先生に「これから医学教育」について講演を頂きました。懇親会では、同窓の皆さんと久しぶりに会って、懐かしい思い出を振りかえり、そして次の世代に残す教育について熱く語り合いました。福岡大学医学部も開校30周年を迎えて、われわれ同窓生自身も次世代の教育に携わるようになりました。教育に対する考えは千差万別ですが、医学医療の情報がこのように膨大になった現在、従来の教えるという手法にはおのずと限界があることは明らかで、学生諸君に学ぶきっかけ、動機付けをして、とともに学び成長できるようなものに変わつてい

ぐ必要があると考えます。

今まで多数の福岡大学部医学部同窓生のご子女が福岡大学医学部に入学され、総数は30人を超えるました。大学を離れると学生教育とは無縁になりがちですが、これから先、自分の子供、次世代が受ける教育をどのようにするのか、また一人一人がどのような形で学生教育に貢献できるかを、今一度考え直す時期に来ています。

福岡大学医学部をよりよく育てていくために、皆さん一人一人の力が必要です。これからもよろしくお願い申し上げます。



7回生から8回生へ会旗引き継ぎ



養老孟司先生



総会司会 武末佳子（11回生）



総会場



サイン



幹事 井上（7回生）と田村（17回生）



九州交響楽団



懇親会



校歌



校歌



校歌

## 第12期理事監事と担当業務

役職名	姓 名	回	担当業務 (◆はチーフ)	勤務先
会長	高木 忠博	1	全体統括	脳神経外科クリニック高木
副会長	朔 啓二郎	1	◆国試	福岡大学医学部 内科学第二
副会長	林 英之	1	◆学術	福岡大学医学部 眼科学
副会長	重田 正義	2	◆総務	山崎リゾートクリニック
専務理事	権藤 公和	1	◆支部	権藤内科
専務理事	浦田 秀則	3	◆筑紫病院・学術	福岡大学筑紫病院 内科第一
専務理事	竹下 盛重	3	◆学生	福岡大学医学部 病理学
専務理事	松本 直樹	3	◆財務	松本病院
常任理事	占部 嘉男	5	学生	占部医院
常任理事	田中 伸之介	5	◆広報	福岡大学病院 外科第一
常任理事	中村 秀治	5	支部	中村クリニック
常任理事	田野 茂樹	6	支部	たの眼科医院
常任理事	二田 哲博	9	学生	二田哲博クリニック
常任理事	笠 健児朗	12	学生	笠外科・胃腸科医院
理事	二見 喜太郎	1	筑紫病院	福岡大学筑紫病院 外科
理事	穴井 堅能	2	特命事項	引野口循環器クリニック
理事	小金丸 史隆	3	特命事項	こがねまるクリニック
理事	柴田 陽三	4	財務	福岡大学病院 整形外科
理事	竹野 文洋	5	支部	医) たけの内科クリニック
理事	小川 厚	6	学生	高邦会高木病院 小児科
理事	上村 精一郎	6	支部	福岡赤十字病院 肝臓内科
理事	岩隈 昭夫	8	総会・総務	福岡リハビリテーション病院
理事	白井 和之	8	◆総会	福岡大学病院 循環器科
理事	武末 佳子	11	広報	京都府立医科大学附属病院 眼科
理事	立川 裕	13	広報	田中病院
理事	喜多村 泰輔	16	広報	福岡大学病院 救命救急センター
監事	江下 明彦	2	.....	医) 江下内科クリニック
監事	大慈弥 裕之	3	.....	福岡大学病院 形成外科

## 支 部 長 名 簿

支 部 名	姓 名	回	勤 務 先
七隈支部	前川 隆文	2	福岡大学病院 外科第二
筑紫病院支部	石井 龍	5	福岡大学筑紫病院 泌尿器科
福岡支部	権藤 公和	1	権藤内科
九州支部	坂本 博士	2	医) 坂本眼科医院
嘉飯山支部	馬郡 良英	1	医) 杏友会馬郡医院
筑後支部	甲斐 保	2	医) 翠甲会甲斐医院
筑紫支部	権藤 英資	1	二日市整形外科病院
福岡赤十字病院支部	上村 精一郎	6	福岡赤十字病院 肝臓内科
甘木朝倉支部	古林 修一	6	こばやし皮膚科
佐賀支部	福岡 英信	2	医) 福岡病院
長崎支部	星子 浄水	7	医) 星子医院
佐世保支部	富田 寿三	7	とみた産婦人科クリニック
熊本支部	魚返 英寛	5	魚返外科胃腸科医院
大分支部	鬼木 寛二	1	咸宜会日田中央病院
宮崎支部	野田 寛	4	野田医院
鹿児島支部	山下 瓦	2	医) 拓和会 山下わたらる内科
沖縄支部	野原 薫	3	のはら小児科医院
広島支部	横手 祐司	3	老人保健施設コスモス園
関西支部	中川 俊正	1	大阪医科大学 病態検査学

# 平成15年度烏帽子会評議員会議事録

◆日 時 平成16年4月24日 16時  
 ◆場 所 福岡国際ホール  
 ◆出席者 評議員：実出席45名  
             委任出席12名 欠席26名  
             支部長：出席12名 欠席7名

## 平成14年度経過報告

### 〈高木会長〉

皆さんお疲れ様です。15年度の経過報告をいたします。皆さんに報告する項目は7つあります。

その中で一番大きな報告内容は竹下盛重君の病理学教授就任だろうと思います。皆さん拍手を。(拍手)。詳しいことは朔先生より報告があると思いますが、選挙についても1回でスッパッと決まり素晴らしい教授選でした。

2つ目が国試の成績です。国試の改革が3年前に始まりましてそれ以来福大は90%以上であり、15年度限りで言えば98%と全国第3位、九州ではNo.1の成績でした。今年は92%と少し落ちました。

3つ目は子弟入学が昨年12名、今年6名(合格は7名)。100人の入学定員の内1割が我々OBの2代目が入学しています。

4つ目が学生対策です。1年・4年・5年・6年と同窓会から学生へのアプローチを始めまして、その効果と言いますか、学生の中に我々も何れは烏帽子会の仲間になるのだという意識が定着してきたように感じます。

5つ目は病院の建て替え計画が2009年からと発表されたことです。2009年に新病棟が今のサッカーグランドのある所に建つという計画が発表され、その年に向かって我々同窓会も寄付等の覚悟が必要になってきます。

6つ目に、全国私立医科大学連絡協議会という全国の私学の同窓会だけが集まった会があります。この会は10年の歴史を持つのですが、その全国会が久留米大学と福岡大学の共催によって福岡で開催されました。私立大学が29校ありますがその内の28校の役員が集まり大変盛会でした。全国の私学連合を今後どうするかという大きな議題について議論しましたところ、非常に活発な意見がありまして充実した全国会でした。

最後は、池田事務局長が80歳の誕生日を迎えられ

ました。池田さんはとても80歳の年齢には見えない程頭も冴えてあり、烏帽子会創立時から熱心に事務方の仕事をして頂きましたのでみんなで集まってお祝いをいたしました。

以上が15年度の経過報告です。この烏帽子会の10年間の経過を見て、同窓会が大学の中でそれなりに頼ることの出来る、同窓会の機能として役割を果たすことが出来る1つの集団であると、大学の先生方から認識されるようになってきたと思います。これから先、我々に問われることは「同窓会はこの大学をどのようにしたいのか」という考え方をしっかりと固める作業だと思います。それに向かって私は全員でやっていることを思いましたし、今、ここに来てくれている理事、監事の方々は理事会の度に夜の7時から10時までの時間を割いて頑張ってくれています。そういう努力があってこそ今の烏帽子会があると云う事を申し上げて私の経過報告とさせて頂きます。

### ◇議題1. 平成15年度収入支出決算見込み

#### ★平成15年度収入支出決算見込み

##### 〈池田事務局長説明〉

##### 〈重田副会長〉

何かご質問はありませんか?ご質問がなければ見込みですので総会で承認頂くということで報告で終わらせて頂きます。

### ◇議題2. 福岡大学医学部同窓会在外研究援助金規定(案)の制定について

##### 〈朔副会長〉

医学部から海外留学する方が結構多いので、それに対して少しでも援助してあげようということから始まりました。1つはある程度グラントをとることが大切で、グラントをとっていると留学もしやすいということで、少額でもいいからグラントをとったという事実があったほうがいいということや、いろいろな意味を含めて留学の助成金を作っています。留学が決まってもビザがなかなか送ってこないために留学ができないという現状があります。あくまでもビザが送られてきた人を対象に不定期に考えて行く。何時送られてくるか予定がたたないので条件を満たしたものがあればその都度理事会で認めて行く。という話になっています。詳細は資料に書かれています。こういう事でちゃんと

した留学の可能性が上がって来るという意味があります。

〈重田副会長〉

留学の援助は同窓会の大きな事業の一つとして行いたいと前々から願っていたものです。やっと形が出来てきたと考えています。額を見て頂くと判ると思いますがまだまだ1件が20万円で5件分の予算です。20万ですから旅費の足しにはなるのではないかと、それ位してあげられたらと始めてみました。

〈朔副会長〉

対象者は今年3人程名前が挙がっていますがビザが送ってきていません。送ってきた段階で考えたいと思っています。

〈重田副会長〉

昨年文書でお知らせしましたとおり、この件については急を要するため理事会の決議で応募者を募り、奨励賞の予算の中から二人の方に援助金を差し上げました。本日はあらためて正式に評議員会のご承認を得たいと思います。希望者は更に増えていくのではないかと思います。何かご質問はありませんか？

福岡大学医学部同窓会在外研究援助金規定（案）の制定については拍手をもって承認される。

◇議題3. 平成16年度事業計画（案）について

〈田中理事〉

内容は議題4と関連しておりますので挿い摘んでご説明させて頂きます。

- ・会報の発行についての必要経費は260万、昨年度予算より50万程の減。郵送料・印刷費の減によるものであります。
- ・支部活動援助費は前年度の実績をみて10万減。
- ・在外研究助成金は先程朔先生からご説明があったもので今年度から新規に計上されたものです。
- ・学生対策は前年度の実績をみて40万の減。
- ・慶弔贈与は前年度の実績をみて4万円の増。
- ・グッズ作製でネクタイ・ネクタイピンの作製費に150万円計上。100万の増となっておりますが、ネクタイ業者が作製を中止することから前倒しで100本作製のため。
- ・会員名簿の発行、これは3年毎の発行で今年度事業として発行いたします。その費用511万円。今年度の大きな事業となります。

合計では前年度より65万9千円の増となります。

〈重田副会長〉

事業の形も同窓会らしい内容になってきました。後は額と実行の問題が残ります。具体的に申しますと

「支部活動援助費」150万ほど計上しておりますが、まだご利用が少ない状況です。「研究奨励賞」「在外研究援助金」もまだ全体の盛り上がりは少ないようですが、形と予算はなんとか作られましたので、後は実行の部分で頑張って行くべきだとの印象を持っています。何かご質問はありませんか？無いようでしたら皆さんのご承認を頂きたいと思います。

平成16年度事業計画（案）については拍手をもって承認される。

◇議題4. 平成16年度収入支出予算（案）

〈池田事務局長説明〉資料5

\*平成16年度収入支出予算（案）は拍手をもって承認される。

◇議題6. 決算評議員会省略の件

決算書類は総会前に各評議員、支部長に送付し、例年どおり総会前の決算評議員会は省略する。

\*決算評議員会省略の件は拍手を持って承認される。

◇議題7. 第12期会長推薦

第12期の同窓会会长に推薦・自薦はありませんでしょうか？

〔高木現会長、立候補表明〕

現同窓会会长が立候補されております。他になればご承認ということになります。

第12期同窓会会长に高木現会長が拍手をもって承認される

〈高木会長〉

12期の同窓会会长をさせて頂きます。11期の時にも手を挙げました。推薦されてするよりも皆さんの前で責任を誓って、実行していく覚悟を自分に自覚させるために立候補させて頂きました。志はいま半ばであと少しです。一番の目標にしているのは正教授の誕生です。今、二人正教授として朔先生・竹下先生が誕生しています。あと5年の間に教授選が目白押しになります。主任教授65歳定年制が大学で決まりまして、たくさんの仲間に次の正教授のチャンスが生まれる状況にあります。その人達を福岡大学の教授にするためにもう少し働きかけて頂きたいと思います。それを大きな目標に掲げて行きたいと思っております。それが完成した時に大学のスタッフと同窓会の歯車がかみ合い非常に大きな力を發揮する事が出来ると信じて頑張っていきますので、よろしくお願ひいたします。

## ◇議題8. 総会案内

## 〈山本理事〉

23回烏帽子会総会を担当しています7回生の山本です。総会日時は平成16年7月10日（土曜日）場所はホテル日航福岡です。午後5時より総会・6時より特別講演。講演者は養老猛先生で「これからの医学教育」というテーマでお話を来て頂く予定です。その後懇親会です。予算は400万円です、現状2/3は集まっています。たくさんの御出席をお願い致します。

## 〈重田副会長〉

養老先生がメインですか？他に総会のレセプション自体のメインはないですか？テーマとか？

## 〈山本理事〉

テーマは「思い出、そしてこれから」です。養老先生は医学部から少し離れておられますが離れた所から教育等について話していただけたらと思っています。講演を聴いた後、懇親会では教育の在り方や、自分達が受けた教育と比較して、自分たちの子供達にどう教育して欲しいか等話して頂きたいと思っています。懇親会でのイベントは考えてないのですが、学生時代を過ごした70年代後半の音楽を、九響の方に演奏もらうことも考えています。あまり派手にはならないようにと考えています。

## ◇議題5. 今後の同窓会活動の方向性について

## 〈重田副会長〉

方向性については大きな話題もあります。皆さんと意見を交えながら将来を語っていきたいと思います。病院の新築計画もようやくタイムスケジュールが出されました。福大病院も築30年を経過し、九大・久留米大学も建て代わり残るは福大だけになりました。具体的には平成17年から着工、19年竣工ということです。後5年のスパンになり、これから3年間の間に如何にソフトを作り上げるかということがメインのテーマになります。我々同窓会が新しい大学に向けて学部と共にやっていきたいと考えています。

朔先生が積極的に大学と一緒に将来の方向性をつけようとしています。まず、朔先生よりどういう内容なのかお聞きしながら始めて行きたいと思います。

## 〈朔副会長〉

新しい病院構想の話を先生方はあまり御存知ではないと思いますので少しお話します。今年1年生が入学した時に福大の紹介をしましたので、その時のスライドを使ってお話しします。

（スライド）福大の全体図・地下鉄の位置・新病棟の

## 場所

地下鉄から上がると病院になるという構想が、本当は来年出来てないといけないのですが、今のところまだ白紙の状態です。平成19年から21年にかけて造ろうかということですが、これは決定したわけではありません。新聞に載ってはいますがまだ何の決定もされていません。今言われていることは新病棟を120億かけて造ろう。今の病棟の改装と合わせて170～180億という事だけで、筑紫病院の改築に関しての話もまだ決まっていません。僕は200億位かけて新しい病院を造った方がいいと何時も言っていますが・・・今からの時代の情報ネットで繋ぐ状態に、福大病院がもう対応出来ないのが現状だと思います。ですから新しい病院を造った方がいいと思います。

## （スライド）同窓会ホール

此處に丸いものがあります。随分前から同窓会でもホールを造った方がいいと言っています。この病院そのものが何も決まっていませんので、私が勝手に同窓会ホールも造ってくれ、お金は出さないといけないかもしれんけど・・・と言ったら設計してくれました、これを設計した人は工学部の講師の先生で東大病院を建てた人です。そういうホールは意味があります。地下鉄から降りて、ホールで学会も出来るし、コンサートも出来る。そういうものがいいと勝手に言っていたら、勝手にホールを書いてくれたんです。

## （スライド）1回生の先生方の在学時の写真。

第1回卒業生中、生存者61名の中で教職についている人を紹介しました。何が言いたいかと言うとみんなが好きで福大に来たわけではない。入学生の半分以上がもっといい大学と思っているはずだが、好きになるには努力がいるんだということを新1年生に話しました。

## （スライド）教員

福岡大学病院の職員が242名、その内の49.2%が本学出身者です。助手・講師・助教授・教授です。私達は医学教育をするのですが、今「教育」は「共育」と書きます。卒業生が約50%ということは共に育つ環境がやっと出来てきたということをいつも皆さんにお話している訳です。

## （スライド）国家試験の合格率

私が教授になったのが平成13年で、それで上がったんだろうと思いましたが今年は14位ですね。それでも合格率は92%ですから悪くないです。全然悪いです。難しくなりました。

## （スライド）4つの習慣と4つの技術

これは会長から言ってくれと言われていることで

す。

〈重田副会長〉

方向性が出ていくことがありますね、だからこそ我々卒業生が責任持ってリーダーシップを取ってやっていくべきではないかという気運が出てきています。しかし問題点がいくつかあります。1つはお金の問題ですが、これもどこの大学も新築する時は卒業生に寄付の問題が出てくるわけで、そろそろ準備をしなければと考えています。だいたいの試算は予算表を見て頂いて80億。それを同窓会が1割として8億。それを2千人で割って、1人当たり単純に30万円として6億。それが常識的な線かなと思います。具体的な計画案が出たわけではありませんが、皆さん、今のスライドを見て頂いたように、大体このような方向で大学が動きつつあること、病院新築の際には、ご寄付をお願いする状況が何らかの形で出てくるだろうということを報告しておきます。もう1つは子弟の入学の問題です。これについては松本理事より説明してもらいます。

〈松本理事〉

お金も絡みますし将来の話にもなりますし、正教授の問題を含めたトータルな話になりますので報告事項と一緒に進めさせて頂きます。

最初に資料の9ページを開けて下さい。我々の同窓会の元気の源あります会費の納入状況です。左側が支部の納入状況、右が本部の納入状況です。改めて財務担当理事として御礼申し上げます。国家試験の結果にも負けない位、他の同窓会にない見事な納入状況です。皆さんのご努力の賜物です。心より感謝申し上げます。

15年度を見て頂くと82.1%。過去の%が高いのは、当然未納の古い年度から埋めていきますので94.3%と高くなります。支部は8割、本部は5割を越える納入状況となっております。この中から同窓会の事業が次々と行われ、学生対策・国試対策・卒後の研究助成金・在外研究助成金に回していく。教授選の時にも相当活動し使わせて頂きました。

次ぎは6ページをお願いします。我々の子弟の入学状況があります。子弟の方で医者になってある方もいます。今年の2年生が、入学した時は子弟が12名いましてこれは画期的なことでした。今年は6名しか入っていません。これは同窓生の子弟だからという優遇措置がほとんどなされていない状況の様です。でも次々と子弟が受けており、受験者が毎年4、50人に達しているのだろうと思いますが、ほんの一部が入学している状況です。

同窓会の今後の方向性について整理してお話しした

いと思います。福大の創世記の頃は、九大の素晴らしいスタッフ達が、当時学生運動等めんどくさい話があった時に、純粋に学問や臨床がしたい、私学らしいいい大学にしたいということでたくさん来られ、医学部の創設の理念に基づいて元気のある状況がありました。1回生から5回生位までは力を合わせて、福大を世の中に認めて貰うために必死だったと思います。それがどうしたことか停滞期を迎えます。丁度20世紀の終わり1997年頃です。その頃は定年が70歳だということもありましたが、全体に福大も次第に評価されてくるとそこに停滞した空気が生じ、その中に怠ける人も出るようになり、さらにそれを許したり庇ったりする体質が生まれて來ました。国家試験の成績もどんどん落ちてきて、ゴシップも出てきたし、トラブルも起きて福大全体がクライシスという状況に陥っていました。そんな時に丁度同窓会は青年期を迎えたのが目覚めた頃と一致するようです。これじゃいかんと危機感のようなものがありました。同窓会が何故そこで立ち上がったかと言うと母校愛でした。我々がどうにかしなければならない。あくまでも素晴らしい先生方に教えて頂いたんだけどそのままでいいのか、母校を愛する僕らの中から教授を出しスタッフを揃え、財政的にも応援するし同窓会も働くという鉄のトライアングル。執行部・学内同窓生・学外同窓生が力を合わせて大学を育てる以外には、いい大学を持って行くことは出来ないんじゃないかということから、同窓会の情熱が出てきたんだだと思います。子弟入学については早く実現して欲しいと言う気持ちちは十分解ります。ただ同窓生の子弟を入れること、入れないことが良いことか悪いことかは議論もあることだと思いますが、今回の病院の建て替えの時の条件闘争で同窓会館ホールを造るから子弟の入学をどうにかしてくれと言ってもおそらくNOだろうと思います。造らなくて結構ですとの返事でしょう。そこが久留米のような単科大学とは違うところです。一人30万と言われたら大金です。設計の方は10億と言われ僕は頭が痛くなりました。良い物を建てないとやはりみっともないですから。そのために皆で集めて6億位のホールをまず造る。そして大学に対して尽くす。ギブアンドギブを繰り返して、全体の雰囲気が変わってきた中で変化が出てくるという、長いスパンでのことではないかと思っている次第です。

〈重田副会長〉

松本節が炸裂したわけですが、大体大きな意味あるいは解って頂けたと思います。今の状況について一方的に話して来ました。支部の先生方もおみえですので朔

副会長・松本理事の話についての御意見や支部活動についてお願ひいたします。

〈権藤福岡支部長〉

私は理事会に大体出ていますので今のお話は非常によく解っています。これはこのようになるのは当然だろうと思います。ほぼ全面的に賛成はしておりますが、問題は新病院の寄付となると金額的に難しいと思います。主旨自体は問題ありませんし、これはそうなるべきだろうと思いますし、皆さんそう考えているはずだと思います。大学の在り方に我々同窓会が或程度関与していくということは、今の状態を見ていると必要ではないかと思います。そのためには人数が増えていく同窓生を各支部でどう纏め、会費納入に関しての応援体制が如何にきちんと出来るかが大事だろうと思います。福岡に関して言えば特に反対はありませんし、じわじわと広報活動をして意見をまとめて行きたいと思っております。

〈山崎前会長〉

権藤支部長の意見を心強く思いました。同窓会も20年以上経って見ると、熱い所とまだ盛り上がっていないところの温度差が今だに有ると。だんだん熱い部分は増えていると思うのですが大半の方はそこまで行ってないのが現状じゃないかなと感じます。少しでも福岡大学医学部同窓会に、或いは福岡大学医学部に熱い気持ちを持ってくれる人を増やしていく活動を、これからも地道に続けて行かなくてはいけないだろうし、まして地元は出来るだけ頑張らないといけないなと今日皆さんの話を聞いて改めて思いました。

〈詠田福岡支部評議員〉

私もお膝元の福岡で開業させて頂いて、福岡大学の発展は私達開業医にとっても重要だと思います。やはり近くにいてお膝元であるだけに、今度は逆に同窓会の方から大学病院への働きかけや、医局への働きかけができるのも近くに居る同窓会員の仕事かなとも思います。同窓会の横の連絡もそうなんですが、同窓会から各医局に働きかけて病院全体を盛り上げるというか、逆に監視するようなことも含めて、病院そのものが発展する方向で、意見を各医局の中でも言えるような姿勢を作り行きたいなと考えています。

〈坂本北九州支部長〉

同窓会は本来どうあるべきかは北九州にいいると各自相当違います。熱い思いを持っている人はいるのですが、支部会費を見るとそれに現れてなくて徴収率が悪い。それは私の責任だと思います。努力して再度各個人に電話・FAXで同窓会の活動を伝えながら徴収率を上げていこうとは思っています。また病院の建て替

えや、同窓会会館を建てるという1つの目標が新しく出来ると今まで無関心だった人、例えば同窓会の意識を持っていない人、電話をしてもなんだと言う人や脱退したいという人を引きつける手段として、もう一度同窓会の持つ意味を伝えるチャンスだと思います。それを利用して同窓生であるという思いを、もう1回よみがえらせたいなと思っています。

〈馬郡嘉飯山支部長〉

子女受験ですが、昨年1人、今年3人名前を書いて出しましたが全滅でした。支部自体は30数名の会員がおり、うち開業は14名です。中学生・高校生を持っている会員もおり受験体制に入していくと思いますので現実味を帯びており、非常に頭が痛いなあと思つております。もう少し頑張って頂きたいと思います。新病棟の建築については大変いいことで、朔先生が言わわれるとおりどうせ作るならサッカー場全体の大きさの物を作れば、2、30年は確実に保つかなと思います。寄付に関しては、県の医師会のメディカルセンターが3万でしたから、同窓会ならその3倍の10万であれば・・・30万円はとても無理ではないかと思います。母校出身の正教授については多いに越したことはありませんし、久留米は目的が子弟の教育ですので基礎がしっかりと同窓会が強いと思います。私のところも久留米を受けさせました。今年東京で試験がありましたので西の慶應と東京でえらい評判で人数も増えて点数も上がったと聞いております。福大は単科大学と違って総合大学のものかしさがあるのでないかなと思いますので、教授はたくさん作るように頑張って頂きたいと思いますし、私も陰ながら応援したいと思います。支部活動ですが、会費は以前から毎月3千円ということで3万6千円の中から1万円出すことにしています。

〈重田副会長〉

毎年100%ありがとうございます。

〈宿里筑後支部評議員〉

一番の話題はやはり寄付の問題だと思います。開業医の先生と勤務医の先生で金額が同率で30万だとしたらかなり厳しいのではないかと思います。開業医の先生の金額を上げ、勤務医の先生の金額を下げるるるまいいろいろな問題が出てくるのではないかと思います。あまり一口の金額を10万にしてしまえばみんなが10万しか払わないということになりますので、あまり一口の金額を下げてもちょっと困るのかなと思いました。筑後支部は支部総会を行っておりますが親睦会は開業の先生が8千円、勤務医の先生は2千円にしています。金額的に安くできるのは筑後支部の会費の

納入率がいいということで勤務医の先生にそれを還元しています。それに伴って勤務医の先生が支部総会に来て頂くことによって、尚更筑後地区の開業医と勤務医の連携が増すと言うことを期待してそういう風にしております。何か良い方法がありましたら考えて頂きたいと思います。

〈重田副会長〉

筑後支部もいつも100%ありがとうございます。

〈権藤筑紫支部長〉

会費の納入率が最悪の筑紫支部です。吉田先生が会計をされてますが、中々払ってくれる人が少なくて来年はもう少し声をかけて上げて行きたいと思っております。それと病院を建てる時の寄付なのですが、同窓会として集めるのですか?福岡大学から来るわけではないのでしょうか?

〈重田副会長〉

我々の希望としては、同窓会の方で一括して集めたいと考えています。

〈権藤筑紫支部長〉

同窓会が金を出すということですね。

〈重田副会長〉

そういうことです。

〈福岡佐賀支部長〉

今度の寄付をもしするとしたら同窓会ホールですか?病院もあるんですか?

〈朔副会長〉

病院もまだ造るかどうかも決まってないし、ホールも独自に造るかどうかまだ決まっていませんが、多分大きな病院の一角にそういったホールが出来る可能性が強いのではないかと思っています。

〈福岡佐賀支部長〉

そういうものを造りたいとは私も思います。いっぺんに何十万は難しいと思いますので、計画があるのであれば分割で少しづつでも集めて、出来る範囲内で企画を上げていくと。それへの協力は吝かではありません。ちょっと飲みにいくのを控えて少しづつでも臍縄って、来たるべき日に出せるようにすると。実際何時になるか。実際に要るか要らないかは別として、各自がそういう気持ちで蓄えをしていけば、そういう時期になった時には纏まつたお金が出せるのではないかと思います。そういう計画を一応暗黙の了解で幾ら位を目標に立てて心積もりをされるのも如何でしょうか。

〈重田副会長〉

大分その話が出てきております。全部の方の御意見

を聞いて総括的に説明したいと思いますが、松本君にお願いします。

〈松本理事〉

平成19年の着工予定として後3年です。1月1万円積み立てていけば丁度30万になります。もう一つ考えておかないといけないのは税処理の問題があります。寄付した時には税金がかかります。それで大学に財団法人がありますので財団法人に30万円入れますと、手数料を大学が取って28か29万が寄付となります。税処理を考えると毎月1万円づつ積み立てて寄付しておくという形にすると無税になる可能性があります。金額的に上限があって無税の寄付というものがあると思います。税理士さんと相談しながら、積み立てるという方式を皆さんに提案したらどうかと言うことも考えていました。10万・30万というところにお話が出るのですが何処の国立大学も含めて病院の建て替え、同窓会会館の建築は一口30万なんですね。どういう訳か一口30万なんです。5千人居る所は15億集まるわけです。羨ましい話ですが僕らはおそらく2千人が対象になるでしょうから。2千人×幾らかになります。ではやはり最初は30をかけとかないと先程仰ったように最初から10万でしたら「もう10万払ったけんよかろう」という話になるかなというところですね。

〈星子長崎支部長〉

病院建て替えの問題に関してやはり少しは出さないといけないとは思っています。30万出せるかと言わるとホントに自信がないというか・・・それを説得する勇気もないというか・・・。積み立てて出来るのであれば少しは考慮出来ると思います。やはりいきなり30万を呉れと言われたら皆に話をしても「長崎から遠かもん」と言われたら何も言えなくなります。そこが一番のネックだと思います。意外と長崎は冷めてる人が多いような気がします。先細りの状態です。長崎は長崎大学があって、地域的に諫早、島原、大村、長崎と3つにも4つにも分かれています。その上に島がある。そういうことで中々まとまりにくいですね。集まるのさえ何処でしょうかと大変で、長崎で集まりたいと思っても、諫早からは2・3時間かかるので集まらないこともあります。長崎の中でも半分に分かれて集まる時もあります。分かれた方が良いのかもしれないと思ったりします。

〈重田副会長〉

離れた所は支部活動がなかなか大変なんですよね。分割も方法論だと思いますので、なるだけ周囲の人間を引きつけて支部活動をお願いしたいと思います。長

崎支部が載っていないのは長崎支部のご希望で本部徵収だからです。

#### 〈久保評議員〉

佐世保はこぢんまりしていて集まりも良く、今月は勉強会が多くて久留米大学OBとの合同勉強会が3回ありましたが皆良く出てきてくれています。会費納入については、松本先生の天才的文章で上手い具合皆を洗脳なさって、詐欺師みたいな取り方でも結構ですので（大爆笑）「なんかしらんまに30万のうなつとつた～。ずーと払いよったら忘れてしもうて、今度4年目になって40万になりようとばってんいつ終わるっちゃろか」というような素晴らしい文章と才能で取られることを期待しております。しっかり騙されようと思つております。佐世保のほうでは皆に協力するように言つますが、先程からも出でますように、いっぺんに30万とか、一口10万というやり方は皆さんお考えのとおりあまり良くないと思います。後は松本先生のサラ金手腕で頑張つて下さい。

#### 〈魚返熊本支部長〉

熊本は温度差が多いあります。僕も熊本に帰つて10年になりますが温度差だらけです。仲良し会でいいんじゃないかと考えている人が半分程居ます。その連中に声掛けをしますがやはりダメですね。先細り状態です。活性化を努力してますがやはりダメです。大学も採算が取れるか取れないかで予算を立てるでしょうから単科大学と違うネックはあるでしょうが、大学にお金があるのであれば何とか出す方法も考えて頂きたいと思います。本学の予算委員会ですね。それが不可能であれば30万という金額は開業医にとって右から左へという時代ではありません。厳しい時代ですので、熊本では私の予想するところによると半分も払わないと思います。僕も分割してくれと言いたい位ですけど。金額の問題ではないと言われますがやはり金額ですね。皆の中で息子、娘が居て福大を受ける人位ですよ集まって来るのは無ければ来ません。そういう方の中には、支部会なつと顔だそうか、総会なつと行こうか、とはっきり言われる方がいます。私自身も後取りもいないし、はっきり言って何も未練はないのですが、携わった以上は頑張ろうと思ってやって来ています。他の先生は「俺は息子も関係ないし熊大卒だから福大がどうなろうがしつこっちゃない」とはっきり言われる先生が居られます。その中で頑張つて来ましたがなかなか手応えが難しいです。それに30万出せと言われてもそれは厳しいリアクションだと思います。温度差をひしひしと感じ、まして同窓会推薦の意味もほとんど無くなつて来るのであれば誰も関

心を示さないかもしれません。年会費を集めるのが申し訳ない位です。本部への会費は払ってくれと頭は下げますけど・・・ネガティブな話になりましたが現状はそうです。努力はいたします。

#### 〈重田副会長〉

頑張つて下さい。お願ひします。後でまた説明いたします。

#### 〈鬼木大分支部長〉

同窓会会館又はホールは我々が一つに纏まるためのシンボルとしていいかなと思います。先程の子弟の入学も同様で歴史と共にその場所に着実に皆が集まって、それから徐々に行くのであって、今すぐに期待をしても無理かなだと思います。同窓会のあるべき姿は久留米のような姿がいいのかは解りませんが、今後皆が纏まっていくシンボルとしてはいいかなと思います。病院の寄付までを考えるとちょっと30万は・・・。たいがい税法上の問題で30万は経費で税金がかからず認められると財団から証明を頂いたこともありますので、九大でもホールを建てるのに一口5万円の寄付が言つて來ました。国立でもそうですね。ただし九大もあと一年で民営化の道へ進みますので福大もおちおちとしておれない、相手もサービスに力を入れれば地下鉄を利用して九大にどんどん行きますし、やはりこちらも地下鉄が出来る以上は診療面でも地域の住民の信頼を得るような、要するに質の高い医者ですね、もちろん合格率が良くないと、偏差値が高くないとダメですが、そこは偏差値プラス質の高い医者ということで、以前アドミッションオフィス方式を言っていましたが、推薦入学の時点からそういう方法で子弟の云々の面接に加えて頂いて、その辺から選択して頂くという方法もあるのではないかと思います。それプラスの成績でしうが。九大も民活化の道を進んでおりますんで、うかうかして居れないと言うことで、やはり新病院プラス素晴らしい医者の教育を期待したいと思います。支部活動におきましては先程来たくさん意見が出ておりますが、大分も同様ですね、日田、中津、別府、大分と郡部とかなり距離があります。その中で10数名、顔ぶれは大体決まっていますが集まっています。支部徵収は郵送して納めて頂けないところは電話で払ってくれとお願ひするとものすごい意見を言う人もいます。「じゃ、結構です」と言うとその内納まっています。(笑い) 半ば脅迫までは行きませんが「そうですか結構です」と言うとやはり寂しい思いがするのでしょうかね、じわっと納まっています。今後纏まって行けるようなシンボライズな会館等を造つて福大そのものをアピールしながら進んで行くべきではな

いかと思います。

〈重田副会長〉

毎年100%ありがとうございます。

〈野田宮崎支部長〉

松本先生の御意見頗もしく聞かせて頂きました。できたら早く事を進めて行ければと、そうすれば多くの子弟の方が助かるかなと思います。金額の問題はやはり同窓生であれば一律だと思います。勤務医だからとか、開業医だからという区別は同窓生にはありません。方向付けは皆さんの意見を伺って良いことだと思います。支部の話ですが、昨年は20周年という事で、高木会長、林、重田副会長に来て頂き、30数名集まり総会を開くことが出来ました。最初1回目は7名でした。後は増えてきます。支部徴収の人数は少しは増えていますが、本部徴収は人数が減っています。これは情けないというかやはり遠いのかなと感じています。勤務医の先生方に同窓会するよと声をかけてもまず殆ど出て来てくれません。開業されている先生の古い方の思い出が根付いているのかなと。新しい人は遠くで来られないのかわかりますが、自分も今日出てくるのに午前中閉めて来ないといけない状況にあります。飛行機一つの便で閉めないといけない程遠いものですから、宮崎も他の支部と同様冷めていく部分が少しあるのかなと思っています。ただ、自分がなんとかやっていけるのは大学から高木会長達が来て頂いてはっぱをかけてもらうこと。それとこの前感じた事は、現教授が来て頂くといいかなと思います。すると大学のホットな話題と昔の思い出と。先週朔教授に延岡市内で講演して頂きました。先程のスライドを延岡でもやって頂いたのですが自分の名前を呼んで頂いてちょっと恥ずかしいけど誇りに思いました。やはり教授が出てくると同窓会会长が来る事は支部にとっても励みになります。逆にそういう集まりの時は是非あちこち顔を出して頂ければありがたいと思います。

〈野原沖縄支部長〉

寄付金の問題ですが、一口30万と言ったらそんなもんなじやないかなと思います。残念ですが支部の会費ですが本部徴収になっていますが、50%位しか払ってないですし、寄付金になったら多分1人か2人位になるかもしれません。ただ、金額的には払う人でも30万が普通で、同門会での学会でも一回で10数万の寄付金を今度集める、2年前にも集めました。そういうのを見たら可能だと思います。一口を30万としてもっと出来るところは倍とする。あくまでも一口を30万とする。それより下げるは皆それで終わってしまいますので、一口が30万。出来る人は二口で

も三口でもやって下さいということでやって行ったら、少しいいのではないかと思います。同窓会支部の状況はここ2、3年は有信会の支部と一緒にやっていたのですが、先週医学部だけの同窓会をして12名集まりました。残念ながら飲み会の域を越えないのですが、一番大事な事は福大の名前が出てくると嬉しいことです。勿論、子弟の問題はありますが、子弟だけではなく私達もまだ現役ですので、名前が出てくる度に福大に対する思いが上がってくると思いますので、そこら辺も含めて頑張って頂きたいと思います。私達も支部で努力するつもりですが、やはり遠いと言うのと、子弟に限らず出来るだけ県から福大に入学させるともう少し変わってくるのではないかと思って努力している途中です。今後もよろしくお願いします。

〈横手広島支部長〉

何時も評議員会には出席だけさせて頂いて、きちんとここであった事項を支部の会員に伝え、それが私の役目と思っております。病院の改築に関して色々な意見が出まして私個人の意見としましては、額もそんなもんだろうと思いますし、30万は所得の控除になりますから、一万引いても確定税金の控除にはなるので、一回と言われても分割と言われても集められたら同窓会の物となるだろうし、私は依存ありませんしそれでいいだろうと思います。支部活動は本部徴収になっていてしかも段々落ちている。土地的にも一つ山口があるため遠くなるのですが、それでも何とか盛り上げて頑張って行きたいと思っているのですが先細りみたいです。時々福大の先生が講演会に来られてその時に集まろう、出席をして下さいと電話を入れて出席を促すんですがだんだん出席が固定してきている。それじゃいかんと今必死で3ヶ月に1回位出席できる先生を集めて勉強会を行っているのですが、薬屋をかませると少し増えますが止めると減るという状況です。福岡大学の事は会員に聞くと個人的には皆好きなんです。会費も自分たちで出すから支部では集めないでと、良く解らない理屈を言われる先生が多いので、お手数かけますが本部の方へお願いしております。私は最初朔先生が言われたとおり、いろんな思いがあつて福岡大学に入りました。でも入って6年して卒業してやはり好きなんですね。だからこうやって世話をしておりますし、福岡大学の同窓会がずっと発展してほしいと思います。だから一生懸命頑張ってやります。迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。子弟の問題ですが、広島支部で福岡大学を受けた方が皆落ちてしましました。僕一人だけでいいんだ。でも福岡大学が好きだから福大の支部の友達会をやろうという先生がいらっしゃ

友達会になってます。上手に愛校心をくすぐると多分乗ってきてくれるし、寄付もちゃんとしてくれるだろうと思いますので、先程ある先生が言わわれたように松本先生が上手に手腕を発揮されて下さればなと思います。僕の家の子も8歳になりました。後10年経って受験する時に、同窓会はお父さんがねと言えるような状況になっていて欲しいと思っています。

〈古林甘木朝倉支部長〉

昨年甘木朝倉支部を立ち上げました。今のところ特別な活動はしておりませんが、来月辺りに支部会を開きたいと思っています。会費ですが、資料を見ると100%になっていますので、会費の納入は東島君に頼んで100%を続けて行きたいと思います。寄付の件ですが、皆が全部30万と言うのは難しいと思いますが、出来るだけの範囲で寄付していけばいいかなと思います。

〈重田副会長〉

七隈支部・筑紫病院支部からの報告も兼ねて将来の事をもうちょっと説明したかったのですが、時間があまりませんので、懇親会の方で理事の方から現状の報告はして頂こうと思います。

最後に執行部の気持を代弁して一言付け加えますと、我々は同窓会活動とは基本的にはボランティア活動だと思っております。そういう意味でギブアンドテイクの議論は同窓会にはなじまないと考えています。同窓会は母校に対する夢だとか希望だとかを語り合う組織で、その夢の実現に向けて皆さんとよく議論しな

がら、卒業生としてのプライドをかけて今後も活動していきたいと思いますので、宜しくお願ひします。

〈高木会長〉

今の鳥帽子会は誰かが一つの壁を、誰かが大きなハードルを一つ一つ越えて行く。大きなハードルを越えたという実績を残す時期に来ていると思います。それでなんなんや?の答えがそれでこうなんやと言えるような力があるか試されているのではないかと思います。そういう時期に我々は入ったという認識を此処にいる皆さんのが持つ、そういう自覚で私もそのつもりで頑張ります。私が一番先に走って、たとえ私が潰れてもいいんです。高木があいつが失敗したことは次ぎに来ている人間が絶対失敗をせずに、またチャレンジしていくという繰り返しが、この組織を非常に強く、充実した同窓会にしていく力になると思います。皆さん是非皆で走って大きな扉を一回開けてみましょう。お願ひします。

〈重田副会長〉

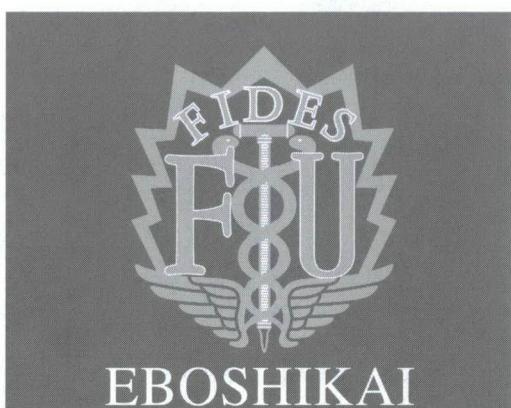
では、平成15年度の予算評議員会を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

〈松本理事〉

最後に一言。支部で徴収されている所とそうでないところとございますが、理事会で話し合って校旗と会旗を皆さんのが支部に贈呈いたします。こんなものしか熊本にもお返しできませんが、この旗のもとに皆さんどうぞ心を一つにして頂きたいと思います。



福岡大学校旗



鳥帽子会会旗

## 研究奨励賞

# 平成16年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 林 英之（1回生）

今年度の学術奨励賞には例年にもまして多数の応募が寄せられたが、選考委員会の熱気あふれる審査の結果、第1外科、ハーバード大学の小玉正太君（13回卒）の論文「自己免疫糖尿病改善時における脾島再生機構—自己免疫糖尿病（NOD）モデルマウスを用いたI型糖尿病の治療ー」に対して100万円。筑紫病院外科の高山成吉君（19回卒）、成富一哉君（18回卒）の論文「食道扁平上皮癌における接着分子ファミリーの発現と臨床病理学的因子との相関性に関する検討—特に原発巣と転移リンパ節の発現の相関性についてー」、「胃腺癌における粘液形質分類と内分泌細胞の関連および臨床的意義」に対してそれぞれ10万円、ならびに内科学第二大学院生の藤野正礼君の研究計画「スタチンとHDLの動脈硬化巣形成に対する影響」に対して30万円の研究奨励賞ならびに奨励金が授与されることになった。

奨励賞は今期同窓会総会において、高木会長から受賞者に手渡された。なかでも、小玉君は

授賞式出席のためボストンから一時帰国して、受賞の喜びと今後の抱負を熱く語った。受賞の対象となった論文、計画はいずれも傑出したものであるが、小玉君の論文は学術誌の頂点ともいえるサイエンス誌に掲載されたものである。その内容も脾ランゲルハンス島の障害における免疫機構の役割とその制御に大胆に踏み込んだもので、I型糖尿病の病因と治療に一石を投じるものと感じられた。

今後、科学のわかる外科医となるかあるいは外科のわかる科学者となるか、いずれの道を選んでも大成されるものと信じる。また筑紫病院外科の二君の論文はいずれも外科研究の王道と言うべき悪性腫瘍の臨床組織病理であり、今後はさらに外科医としての研鑽を積み筑紫病院外科に貢献されることを願ってやまない。

最後に藤野君は朔教授以下スタッフの指導を得て、第2内科の研究の伝統を受け継ぐ研究に発展させて再度論文で奨励賞を受けていただきたいと望まれる。



向って左から 小玉正太、藤野正礼、高山成吉、成富一哉の各受賞者

## 平成16年度研究奨励賞受賞の言葉

### 自己免疫糖尿病改善時における膵島再生機構 —自己免疫糖尿病（NOD）モデルマウスを用いたI型糖尿病の治療— [論文]

ハーバード医学部講師・福岡大学外科第一医員 小玉正太（13回生）

この度は栄誉ある、研究奨励賞を頂きまして誠にありがとうございました。現在の医学部で研究者を取り巻く環境は、研究費の特定施設への重点配分や、研修医制度の改革に伴うマンパワー不足など、すべての事柄が向かい風を受けている様に感じます。しかしこの様な環境に有りましても、研究奨励賞が研究者にどれだけ自

信を与え、またモチベーションを高めているのか、今回私にはよく判りました。この場をお借りしまして、同窓会の皆様に、厚くお礼申し上げます。また、長期に渡り研究の機会を与えて頂きました、外科学第一教室の池田靖洋教授と、大学院時代より厳しく研究指導を頂きました、安波洋一助教授に感謝致します。

### スタチンとHDLの動脈硬化巣形成に対する影響 [計画]

福岡大学医学部 内科学第二 福大大学院生 藤野正礼（21回生）

この度はこのように立派な賞をいただき誠にありがとうございます。2001年4月より福岡大学の大学院生として、朔啓二郎教授、三浦伸一郎講師をはじめ諸先輩方のご指導の下にスタチンと高比重リポタンパク質の多面的効果について研究を行っております。現在高脂血症治療薬として用いられているスタチンは、最近ではその血中脂質低下作用だけでなく、その他の多面的作用が認められるようになり、臨床でも

スタチン投与による心血管イベントの抑制が報告されています。初期の動脈硬化巣形成において単球や内皮細胞が関与していると言われていますが、現在これらの細胞にスタチンやHDLを投与してその影響を検討しています。今回の受賞を励みにこれからもがんばっていこうと思っております。最後になりましたがこの場をお借りしまして、ご指導賜りました諸先生方に深く御礼申し上げます。

### 食道扁平上皮癌における接着分子ファミリーの発現と臨床病理学的因子との相関性に関する検討 —特に原発巣と転移リンパ節の発現の相関性について— [論文]

福岡大学筑紫病院 外科 福大医員 高山成吉（19回生）

この度は立派な賞を与えて頂きまして誠にありがとうございます。私は卒業しまして福岡大学筑紫病院外科に入局致しました。その後大学院に入りまして今回の仕事を行ったわけです。私の行った仕事は癌細胞の接着因子というもので元々細胞自体が個々に形成されていく上で接着因子が必要になるんですが、それが癌の転移・浸潤に関しましてどのように変化していく

かということを勉強しました。またその転移先で個々にどういう風な変化を行うについて研究いたしました。今日この会に参加させて頂いて高木会長、皆様、烏帽子会の非常に熱い心に触れました。私もこういう心を持って頑張って行きたいと思います。ありがとうございます。

### 胃腺癌における粘液形質分類と内分泌細胞の関連および臨床的意義 [論文]

福岡大学医学部 内科学第二 福大大学院生 成富一哉（18回生）

平成16年度福岡大学医学部同窓会研究奨励賞という大変名誉ある賞を戴き、誠に有難うございました。私は筑紫病院外科へ入局後、外科医にとって必要な病理学を有馬教授、岩下助教授の御指導のもと4年間学びました。なかでも胃癌については以前より興味があり、胃癌に特異的な性質を有する粘液形質と内分泌細胞との関係についてリサーチしました。賞で戴いた盾

にはyoung investigatorという言葉があり、身が引き締まる想いと同時に、病理学を通して学んだ知識を更なるリサーチと臨床に生かしていくと考えています。今後は名誉ある賞に恥じないような仕事を続けていく覚悟であります。今回、このような機会を与えて戴き、大変感謝申し上げます。

## 平成15年度受賞者研究報告

### コレステリルエステル転送蛋白(CETP)阻害による 高比重リポ蛋白(HDL)の増加機序の検討(計画)

福岡大学医学部 内科学第二 大学院生 下地 栄壮 (20回生)

高比重リポ蛋白コレステロール (HDL-C) は、冠動脈疾患のリスクと負に相關する。HDLの抗動脈硬化作用の主な機序は、末梢細胞に蓄積されたコレステリルエステル (CE) を肝臓に転送し代謝する、いわゆるコレステロール逆転送系 (RCT) における役割とされる。CETPはRCTにおいて重要な蛋白であり、CEをHDLからアポリポ蛋白 (apo) B含有リポ蛋白に転送する役割を担う。遺伝子変異による CETP欠損症患者では HDLが極めて高値を示す。CETPを阻害することにより、HDLから LDLへのCEの転送が阻害され、HDL-Cの上昇及びLDL-Cの減少が生じる。最近、CETP阻害薬 (JTT-705) が開発され、JTT-705による CETP活性の阻害がコレステロール負荷ウサギにおいてHDL-Cを増加、動脈硬化病変を抑制し、ヒトにおいても著明なHDL-C上昇作用を有すると報告された。しかし、CETP活性阻害によるHDL上昇の機序は解明されていない。

HDLの増加の機序としては、HDLの主蛋白であるアポ A-Iの合成率 (SR) の増加または分画異化率 (FCR) の低下、その二つのコンビネーションによる機序が想定される。このアポ A-Iの合成率・異化率という、HDLの体内動態をみるのが生体内HDL-kinetic studyである。今回の研究で、正常ウサギにおいてJTT-705が HDLを上昇させる機序とそれにおける代謝背景の影響を検討した。日本白色種ウサギを正常食とコレステロール負荷食 (0.2%) で飼育し、それぞれJTT-705 (0.75%) 投与群と非投与(対照) 群に分けた。投与前と投与後5ヶ月と

7ヶ月に採血し、CETP活性、血清リポ蛋白、アポA-I値を測定した。投与終了後、アポA-Iの生体内kinetic studyを最近我々が確立した新しい方法を用いて行った。

正常食ウサギにおいて、JTT-705はCETP活性を著明に抑制し、HDL-C値及びアポ A-I値を上昇させた。JTT-705はアポ A-IのFCRに有意に影響しなかったが、アポ A-IのSRを有意に上昇させた。また、肝臓でのアポ A-Iの遺伝子発現量が有意に増加していた。つまり、JTT-705はアポA-Iの合成を増加することによって HDLを上昇したことが示された。コレステロール負荷ウサギにおいては、JTT-705はコレステロール負荷により速くなったアポ A-Iの代謝 (FCR) を正常に戻した。また、JTT-705はコレステロール負荷により減少したアポA-IのSRを増加した。以上の結果により、CETP活性阻害は代謝の背景に関係なくアポ A-I合成を増加した。その機序として、肝におけるアポA-I mRNAの増加があげられたが、コレステロール負荷食ウサギのアポA-Iの代謝変動から以下のことが考察された。CETPが循環血中でCEを HDLからLDLに転送するcentral作用のみならず、CEをHDLから末梢細胞に転送するlocal作用も有しており、JTT-705はCETPのlocal作用をも阻害することにより細胞内のコレステロール合成を減少させ、アポA-Iの合成を増加させた可能性が考えられる。

以上のことより、CETP活性阻害によるHDLの増加が動脈硬化に対する治療的なアプローチに成り得ることが示唆された。

### 西日本におけるBrugada症候群の 原因遺伝子解析：2つの新たな遺伝子変異の発見

福岡大学病院 循環器科 新村 英也 (18回生)

早いもので平成15年度の同窓会研究奨励賞をいただいてから1年がたちました。奨励賞を励

みに、当院および筑紫病院でBrugada症候群の診断を得た患者を対象にBrugada症候群の原因

遺伝子 (SCN5A遺伝子) の解析を続けております。同遺伝子はヒト心筋ナトリウム(Na)チャネル $\alpha$ サブユニットをコードする遺伝子で、変異の部位によっては、Naチャネルの機能異常に大きく関係することが細胞レベルで証明されています。12名のBrugada症候群患者について（現在では20症例を超える）遺伝子解析を行い、2つの全く新しい遺伝子変異G292SとS835Lを同定いたしました。Naチャネル $\alpha$ サブユニットはそれぞれ6つの膜貫通セグメントを持つ4つのドメインで構成されていますが、G292S変異は、ドメイン1セグメント(S)5-6間の細胞外ループに位置します。S5-6ループはイオン選択フィルターと中心孔を形成するループであり、同部位の変異の報告は比較的多く、Na電流の異常を引き起こしている可能性が考えられました。S835Lはドメイン2の細胞内ループにおける初めての変異であります。今日ま

で様々な遺伝子異常が報告されておりますが、依然として本症候群における心室性不整脈の発生機序は明らかではありません。今回の解析は SCN5A遺伝子の翻訳領域に限定したものであり、イントロンやプロモーター領域を含めたさらなる解析が必要であると考えております。上記2つの遺伝子変異の発見をもとに、日本循環器学会誌「Circulation journal」に論文投稿し、2004年8月号にGenetic analysis of Brugada syndrome in Western Japan: Two novel mutationsという論文がacceptされ、同論文をもって本年9月に博士号をいただきました。大変ありがとうございました。応援してくださった同窓会の皆様には大変感謝しております。また、直接ご指導いただきました朔教授、松永助教授にこの場をお借りしまして改めてお礼を申し上げます。

最後になりますが、福岡大学医学部同窓会の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 平成16年度受賞者研究報告

### 自己免疫糖尿病改善時における脾島再生機構 —自己免疫糖尿病（NOD）モデルマウスを用いたⅠ型糖尿病の治療— [論文]

ハーバード大学医学部講師・福岡大学第1外科医員 小玉正太（13回生）

現在日本移植学会の認定施設であります福岡大学では、臨床脾島移植が初まろうとしています。私は大学院で安波洋一助教授御指導の元、脾島移植を中心とします移植免疫学を専攻致しました。脾島移植は臓器移植と比べ、Cell Biology をはじめとする基礎医学分野での進歩を、いち早く臨床に反映する事の出来る細胞移植であります。そのため基礎研究での成果が常に期待されている分野であると思われます。ただ移植医療で大きな妨げの一つとなっていますのが、ドナー不足の問題であります。これらの解決法として、また次世代の移植医療を担う研究として、再生医療や幹細胞移植が現在注目されています。

私は大学院を卒業後、2000年に博士研究員としてハーバード大学医学部の関連施設であるマサチューセッツ総合病院へ留学し、現在に至ります。幸運にもそこで行ないました研究結果

が、今後の再生医療や幹細胞移植に新しい可能性を与えるものであった為、昨年サイエンス誌（Science 302: 1223-1227, 2003）に掲載されました。この度研究奨励賞の受賞対象となりました同研究内容につきまして、御報告したいと思います。

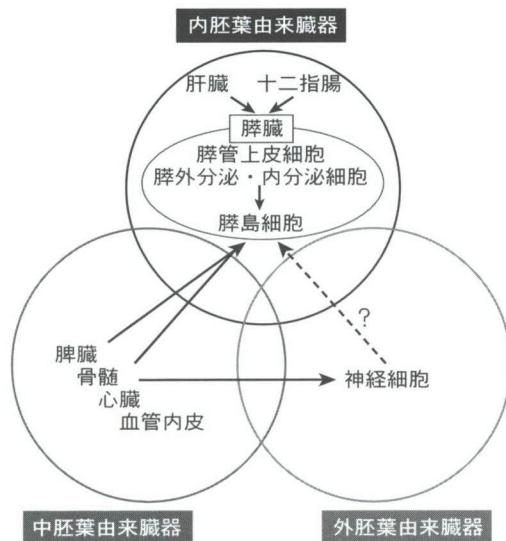
脾島移植の対象となるレシピエントは、基礎疾患として自己免疫糖尿病（1型糖尿病）を患っています。このため1型糖尿病の動物実験モデルとして用いられる Nonobese Diabetic (NOD) mouse を今回使用しました。当初自己免疫応答の修復を期待して強力な免疫調節療法である完全フロイントアジュバントと、ドナー特異抗原として MHC class I の一致した脾細胞をこれらのマウスに投与しました。

すると自己免疫応答の改善と共に、予想にもしなかった事ですが、脾島細胞が再生している

事が判りました。更にこれらの事象を詳細に検討した結果、再生だけでなく新生脾島細胞が機能している可能性があることに気付きました。この仮説を証明すべく、同じ誘導で再度実験を行ないました。メスのマウスをレシピエントとしオスのドナー細胞を移入する事で、キメラ細胞にあるY染色体の検出を試みました。その結果、移入されたドナー脾細胞の一部に成体幹細胞を含み、レシピエントの脾島細胞に分化転換していた事が判りました。更に成体幹細胞の表現型の同定を別のキメラ検出モデルで行うべく、Green Fluorescent Protein (GFP) でラベルされたマウスドナー細胞を選別し移入した所、分化転換していた成体幹細胞は、間葉系幹細胞群に一致していた事が明かとなりました。引き続き行いました最近の研究結果から、これら成体間葉系幹細胞群は単離された臓器に依存する、特異な細胞集団である事が証明されつつあります。言い換えますと、同じ様に数種類の表面マーカーで間葉系幹細胞群の選別を行ないましても、得られた細胞群は骨髄、脾臓、肝臓等で異なる可能性が高く、それぞれ必須となります転写因子の活性で、異なる分化誘導を生じる可能性が明かとなりつつあります。

今回の発表に関連致しまして、研究への成果というものは、発表を行いました研究分野の評

価で終わる事なく、他分野に影響を与え更に今後新しい研究課題を生み出して行くものでなければならないと信じています。今後も診療科や基礎医学分野の壁を超えた研究をライフ・ワークとして続け、またこれら基礎研究における成果の臨床応用を移植医療等で反映させて行きたいと考えています。



成体幹細胞のもつ分化能  
脾島細胞へ分化転換する成体幹細胞の可能性について図示した

実験医学 22: 516-518, 2004 掲載より

## 食道扁平上皮癌における接着分子ファミリーの発現と臨床病理学的因子との相関性に関する検討—特に原発巣と転移リンパ節の発現の相関性について— [論文]

福岡大学筑紫病院 外科 福大医員

高山 成吉 (19回生)

**【目的】**我々は食道扁平上皮癌原発巣とその転移リンパ節において、各接着分子E-カドヘリシン、 $\beta$ -カテニン、CD44、CD44-v6の発現がどのように関連し、臨床病理学的意義を持つか検討してきた。**【対象と方法】**治癒切除術前未治療食道扁平上皮癌71症例(リンパ節転移症例32例、総転移個数153個)を対象とした。10%ホルマリン固定手術標本の腫瘍最大割面と転移リンパ節のパラフィン包埋切片について、免疫組織化学染色法を行った。解析結果はP<0.05をもって有意差ありとした。**【結果】**1.原発巣にお

ける発現において臨床病理学的因子との相関では、E-カドヘリシン、 $\beta$ -カテニン、CD44-v6はリンパ管・静脈侵襲陽性例において有意に発現の低下がみられた( $p<0.05$ )。E-カドヘリシン及び $\beta$ -カテニンは深達度、リンパ節転移陽性例において( $p<0.05$ )、E-カドヘリシンは浸潤形態の増悪( $p<0.05$ )と再発例( $p<0.01$ )において有意に発現減弱を認めた。CD44は分化度の低下に従い発現が有意に減弱していた( $p<0.05$ )。インテグリン $\beta$ 1は癌細部の深部浸潤に従い発現が有意に増強していた( $p<0.05$ )。各分子の発現相関で

はE-カドヘリンと $\beta$ -カテニン( $R=0.55$ ,  $p<0.001$ )、CD44とCD44v6 ( $R=0.65$ ,  $p<0.001$ )は正の相関を認めた。5年生存率では、E-カドヘリンのNegative群、 $\beta$ -カテニンのReductive群とNegative群、CD44-v6のHeterogeneous群とNegative群において有意に5年生存率は低下していた( $p<0.05$ )。2.転移リンパ節における発現についてE-カドヘリン、CD44、インテグリン $\beta$ 1( $p<0.01$ )、CD44-v6 ( $p<0.05$ )は原発腫瘍部に比べ有意に発現が減弱していた。リンパ節転移の範囲では各接着分子の転移リンパ節における発現に有意な傾向をみとめなかった。転移リンパ節の個数で検討すると、E-カドヘリン、 $\beta$ -カテニン及びCD44-v6は転移個数の増加に伴い発現が有意に減弱し ( $p<0.01$ )、CD44、イ

ンテグリン $\beta$ 1についても、転移個数の増加に伴い発現が減弱する傾向にあった。【結論】腫瘍原発部における接着分子の発現減弱は癌細胞の浸潤、転移に関与し、予後不良因子であった。異なる接着分子の発現パターンに一定した傾向はみられず、浸潤、転移においては異なる作用機序を有する接着分子は互いに影響していない可能性が示唆された。転移リンパ節における接着分子の発現は転移部位の遠近に関わらず、転移個数の増加に伴って減弱していた。食道扁平上皮癌においては転移リンパ節個数の増加は予後不良因子と考えられており、転移リンパ節を含めた接着分子の発現検索は正確な予後予測因子となりえると考えられた。

## 胃腺癌における粘液形質分類と内分泌細胞の関連および臨床的意義 [論文]

福岡大学筑紫病院 外科 福大医員

成 富 一 哉 (18回生)

【目的】胃腺癌における粘液形質とその場を母地として発生した内分泌細胞への分化との関係および、両者と臨床病理学的事項との関連性を検討した。

【対象・方法】当院で切除された胃腺癌964例中、無作為に抽出した単発癌397例〔m:58例、sm:206例、mp:73例、ss:60例で、分化型癌(管状腺癌):282例、未分化型癌(低分化型・印環細胞癌):115例〕を用いた。粘液形質は免疫組織化学染色(human gastric mucin, Muc2, CD10)および、組織化学染色(Paradoxical concanavalin A, high iron Diamine)を行い、胃型、腸型、混合型、無形質型の4つの型に分類した。また、免疫組織化学染色(Serotonin, Gastrin, Pancreatic polypeptide, Chromogranin A)を行い、内分泌細胞を同定後、粘液形質別にそれぞれの内分泌細胞の出現状況を比較した。いずれかの内分泌細胞に染色性を示すものをECs(+)とした。両者と臨床病理学的事項、とくに悪性度の指標としてリンパ節転移との関連を比較検討した。統計学的検定はMann-Whitney U testおよび、 $\chi^2$ 乗検定にて行い、5年生存率はKaplan-Meier法にて作成し、 $p<0.05$ を有意差ありとした。

【結果】397例中、胃型:100例(25.2%)、腸型:129例(32.5%)、混合型:120例(30.2%)、無形質型:48例(12.1%)であった。深達度による粘液形質の比較では、明らかな変化は認めなかつた。組織学的には胃型は分化型41例、未分化型59例で、腸型は分化型118例、未分化型11例であった。未分化型癌において、胃型以外では56例中、粘膜内癌は2例のみであり、いずれの粘液形質においても分化型癌と比較し、深く浸潤していた。また、未分化型癌では深達度が深くなる程、有意に胃型は減少し、腸型は増加傾向を示した。内分泌細胞の出現頻度は64.2%で各々、Serotonin(17.9%)、Gastrin(8.1%)、Pancreatic polypeptide(29.5%)、Chromogranin A(42.1%)と高率に検出された。粘液形質別の内分泌細胞の出現頻度は胃型58.0%、腸型65.1%、混合型80.0%、無形質型35.4%であり、胃型、腸型症例ともに内分泌細胞の特異性はみられなかつた。深達度sm・mp症例279例におけるリンパ節転移の検討では、胃型ではECs(+)群22.7%、ECs(-)群0%、また腸型でもECs(+)群26.9%、ECs(-)群4.5%とECs(+)群で有意にリンパ節転移が高率であった。リンパ管侵襲に

関しても、胃型でECs(+)群が有意に高頻度に認められた。sm・mp癌症例における5年生存率の比較では粘液形質別に差はなく、内分泌細胞別にはECs(+)群がECs(-)群に比べ、予後不良の傾向を示した( $p=0.06$ )。

【結語】胃腺癌における粘液形質の分類では、腸型形質を有していれば、ほぼ分化型と考えられたが、胃型に関しては多様性がみられた。未分化型癌においては、早期癌に比べ進行癌で、

胃型の頻度は有意に減少し、腸型は増加する傾向を示し、深達度が進むにつれ胃型から腸型へ移行することが示唆された。sm・mp癌のリンパ節転移の検討では胃型、腸型ともにECs陽性群で有意に高率であり、生存率の比較でもECs陽性群で予後不良の傾向にあった。中期進行胃癌(sm・mp癌)の生物学的悪性度の評価には粘液形質よりも内分泌細胞の存在の方がより大きな比重を占めるものと考えられた。

## 平成17年度 研究奨励賞 募集要項

**対 象**：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者  
(本会会費完納を条件とする)

**研究課題**：医学に関するものであれば自由（医学に関する研究計画又は研究論文）

**申請方法**：所定の申請書による（所定欄に支部長推薦を要す）

**提出先**：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局  
Tel 092-865-6353（直通） 内線3032 Fax 092-865-9484

**締 切**：平成17年4月30日

**賞状・賞金**：奨励賞（優秀論文賞を含む）5件以内

**発表及び表彰**：平成17年7月、第24回同窓会総会席上

**その他の**：  
①受賞者は研究報告書を提出する事（研究は2年内に終了）  
②受賞者は研究成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事  
③申請書は同窓会事務局に請求又は鳥帽子会ホームページからダウンロードの事  
④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表）、研究の独創性・重要性を十分に書く事

## 平成17年度 在外研究援助金 募集要項

**対 象**：正会員、準会員及び学生会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

**申請方法**：所定の申請書により、留学出発3ヶ月前までに提出の事

**提出先**：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局  
Tel 092-865-6353（直通） 内線3032 Fax 092-865-9484

**援 助 金**：1件20万円を限度とし、年間10件以内

**発 表**：その都度、同窓会会報に掲載

**発表及び表彰**：平成17年7月、第24回同窓会総会席上

**その他の**：  
①受給者は帰国後その成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事  
②申請書は同窓会事務局に請求又は鳥帽子会ホームページからダウンロードの事

## 平成16年度受給者（16年10月現在）

宇野 宏一（20回生）福岡大学病院眼科 アメリカ ジョンホプキンス大学  
樋口 隆男（20回生）福岡大学医学部外科学第二 オーストラリア アルフレッド病院  
今野 俊和（19回生）福岡大学病院外科第二 デンマーク コペンハーゲン大学

\*支給額はいずれも20万円

同窓生交歓  
No.3

第三回生

卒業して二十四年経ちました。

先日浦田秀則君と竹下盛重君の教授就任祝いを3回生で行いました。

同窓会総会などでよく見る顔が多かつたのですが、久しぶりで誰かわからぬ人や、顔は思い出すが名前が全く出てこない人、非常に変わった人、全く変わらない人様々でした。

予算が十分にあつたらしく、料理も飲み物も美味しいものがふんだんにあり、楽しいひと時を過ごしました。

皆の挨拶も終わり、宴が最後に近くなった時に、酔つた勢いで僕もお祝いが言いたいと言つて、しどろもどろの祝辞を述べさせてもらいました。

同級生との付き合いは、同門の浦田君が筑紫病院に来て以来、患者さんのことで世話になつたり一緒に酒を飲んだりしています。

また悪友の辻君とは飲みに行ったり、一緒に買った船に乗つて西の方の海で魚釣りを楽しんでいます。小さな鰯子しか釣つていませんので詳しい方がありましたら御指導ください。

田 邊 庸 一



浦田秀則君 竹下盛重君 教授就任祝賀会  
福大医学部 第3回生卒業25周年記念祝賀会

## 学生対策行事

### 国試激励会

二田哲博クリニック 院長

二田 哲 博 (9回生)

平成16年4月22日に恒例の国試激励会が福新楼にて行われました。その中で今年度の国試合格率の詳細が発表されました。我が校の合格率は83.3%（新卒者91.9%）で、全国の私立大学医学部の平均合格率は85.5%（新卒者90.8%）という結果でした。新卒者については全国平均を上回ったうえに、90%台という高い合格率を保ち定着しつつあることは大変喜ばしいことです。この結果を受け、高木会長、重田副会長、

山田教授、比嘉教授より、来年度の受験生に向けて力強いエールが送られました。それに応えて、来年度はさらに高い合格率を目指そうという学生代表の決意表明が行われました。来年度は100%に近い合格率を達成できるように、烏帽子会としても受験生の方々を多方面からサポートしていきたいと思っております。皆様の暖かいご協力をお願い申し上げます。



懇 談



後輩を励ます合格ホヤホヤの先輩

### 新入生歓迎会

たけすえ耳鼻科クリニック 院長

武 末 淳 (10回生)

平成14年5月21日、烏帽子会行事として恒例となった平成14年度新入生歓迎会が福新楼にて行われました。

今年の新趣向として、新入生諸君との関係ばかりでなく、医学部教育スタッフと烏帽子会とを含めた三者の繋がりを、これまで以上に緊密にする事を考慮して、学年担任の坂田則行教授を始め、新入生のグループ副担任の先生方にも参加のお声掛けをしました。今回は、御参加頂いたのが坂田教授と烏帽子会会員でもある

松永助教授のみと少数の御参加でしたが、新入生諸君と烏帽子会会員と医学部担任とが、皆、打ち解け盛り上がった会話が終始会場内を満たしていました。この試みに関しては、まだまだ今後検討し、発展させていきたいと考えております。

会の最後に、これまた恒例となった烏帽子会エンブレム入りのTシャツの贈呈が会員から新入生ひとりひとりに手渡され、一同がこのTシャツを着て肩を組み、輪になっての校歌が斉

唱され、盛会のうちに新入生歓迎会を終了しました。

今回も準備に奔走された烏帽子会役員の方、

事務局の皆さん、そして当日出席頂きました会員の方々へ感謝の意を捧げます。



校 歌



校 歌

## M4激励会

理事 占 部 嘉 男 (5回生)

平成16年9月9日、福新楼にて4年生の激励会が行われました。第1回の新入生歓迎会に出席した学生との3年ぶりの再会でもあり、学生97名と多数参加してくれました。聞けば、今は学生コンパなど全員が集まる会は無いとのことです。時代の流れといえばそれまでですが、医療という世界は一匹狼ではなかなかうまくいくものではありません。この病気ならあいつに、あの病気ならあの先輩がいたということが将来必ずあるはずです。横と縦の繋がりを結ぶこの

会が地獄の医学生生活のオアシスになることを願ってやみません。今回出席されたOBは以下の方です。学生時代親交があったOB,OGの方は次回からの出席をお待ちしております。

1回生：権藤、朔、高木、二見、林 2回生：穴井、江下、重田 3回生：浦田、大慈弥 小金丸、竹下、松本 4回生：蓮尾 5回生：占部、竹野、中村秀 6回生：田野 8回生：岩隈、中村吉、松尾 9回生：田丸、二田 10回生：坂田、本庄 12回生：笠



諭す先輩



語る先輩

## 教室紹介

# 内科学第一

内科学第一 医局長 高田 徹 (回生)

内科学第一は、田村和夫教授を中心に、血液・腫瘍内科学、糖尿病・内分泌学、感染症学を専門とし、それぞれ鈴宮助教授、安西講師、高田講師を中心として診療、教育、研究を行っている。3分野とも特定の臓器ではなく全身を横断的に診療する、すなわちあらゆる医療分野でみられる疾患を扱っており、general physicianとして基本的な臨床能力を備えた上で各専門領域を極める考え方を基本としている。

“がん”治療を専門とする臨床腫瘍専門医を養成する機関はわが国では極めて少ない。そのため当科では腫瘍内科医や血液専門医を独自のカリキュラムの下で育成することに情熱を注いでいる。診療では悪性リンパ腫、白血病、肺癌・乳癌を主体に化学療法や造血幹細胞移植が行われ、年々患者数が増加している。高齢者を含め長期生存例がみられ、QOLの改善が得られている。また、外来での治療が可能な場合は外来で化学療法を積極的にしており告知から治療まで全て外来で行うことも珍しくない。研究面では新しい薬剤の開発、九州における血液・癌治療グループとの共同で当内科を事務局あるいは登録センターとして多数の先端的な前向きの臨床研究、それを支える基礎研究が行われ、福岡大学、九州発のエビデンスの構築を目指している。糖尿病・内分泌領域の患者は年々患者が増加しており、その上多数の外科系入院患者の血糖管理および内分泌疾患の診療を行っている。また福岡大学病院は1型糖尿病の新しい治療の一つである膵島移植の日本の拠点病院5施設の1つであり、第一外科、臨床検査医学、放射線科、輸血部、薬剤部と共に移植のできる体制を整えるとともに、膵島細胞や1型糖尿病に関する臨床と

直結した基礎研究を行っている。さらに糖尿病の重要な合併症の一つである糖尿病壊疽の発症・進展防止のためフットケア外来開設に向け準備を進めている。感染症研究室は、感染対策室と連携して血液培養陽性、抗MRSA薬使用、偽膜性腸炎例への積極的な介入さらに、院内感染対策の指導を行い、常時10-20名前後の入院患者を往診している。研究面では悪性疾患に合併する日和見感染症、多剤耐性菌やバイオフィルムについて、検討を加えている。

当科はとりわけ研修医、医員や学生の教育に情熱を注いでおり、きちんとした指導体制をしき朝夕の病棟カンファレンス、廻診、レクチャーを通して中身の濃い臨床教育を行っている。研究面においては海外留学も積極的に奨励しており、ハーバード大学の関連施設をはじめとした一流の研究機関で研鑽を積んでいる。

当診療科認識が高まるにつれ、院外からの専門医派遣の要請が増えて、すでに田村教授赴任後に当科で研修を終えた医師が専門医として巣立ち、院内および関連病院で活躍している。今後も地域医療に還元できる有能な内科医、専門医の育成を目指して努力を続けていくつもりである。



## 内 科 学 第 二

内科学第二 助教授 松 永 彰 (3回生)

福岡大学第二内科は、2000年から荒川規矩男前教授より、朔啓二郎教授に引き継がれています。福岡大学医学部一回生である朔教授が就任され、第二内科はしだいに大きく活発な教室になり、今も成長を続けています。現在、医局員は朔教授以下、助教授1名、講師7名、助手2名、大学院生11名など、院外医員も含めると約90名のメンバーで構成されています。特に意図したものではありませんが、現在のスタッフ全員が研修医あるいは若い頃から第二内科で育った人材で、多くは福岡大学医学部出身者であり、海外留学からのUターン者です。

当教室は、循環器と代謝疾患の臨床、教育、研究を担当しており、福岡大学病院の診療科としては、患者さんへのわかり易さも考慮して「循環器科」と公称しています。「循環器疾患のプレベンションからインターベンションまで」をテーマに教室運営がされており、基礎・臨床やグループ間の垣根のない自由で活気のある教室内です。臨床面でも、朔教授就任直後から24時間体制で急患の受け入れを行っており、緊急心臓カテーテル検査にも365日対応し、昨年は年間967例の心カテを行っています。虚血性心疾患に関しては、冠動脈内超音波法、経皮的冠動脈形成術(PTCA)、ステント、ロータブレーターなど従来からの先進的な検査・治療に加え、侵襲の少ないマルチスライスCTによる冠動脈病変評価や再狭窄率10%以下とされる薬剤溶出性ステント(DES)による治療にも積極的に取り組んでおり、他の施設と協力して診断・治療法を改善するための研究も進めています。

生命を脅かす難治性不整脈に対しては、植込み型除細動器、カテーテルアブレーションによる根治術を行っており、原因究明のための遺伝子解析など基礎的な研究も積極的に行っています。心房細動に対しても最先端のバルーンを使ったカテーテルアブレーションによる根治治療など日本で有数の高度先端医療施設になっています。動脈硬化性疾患に関しては、キャピラリーウィーク等速電気泳動による精密で簡便な血清リポ蛋白解析法の開発を始めとして動脈硬化、高脂血症、高血圧の分野で世界レベルの研究が数多く行われています。

卒後研修については、内科各専門分野の協力により内科学会認定医の全員取得を前提とし、専門に偏らない内科系の卒後研修を行っており、研修制度改革により若干の変更はありますが、今後も継続します。その後、全員が内科専門医、循環器専門医となり、地域医療の核として自立して研鑽を積むことができることをめざしています。また、世界的視野で臨床・研究に取り組むことができるよう海外留学を積極的に推し進め、現在も米国、カナダ、ドイツなどに5名が留学中です。



会員寄稿

## 父の聴診器

東京大学大学院国際保健計画学 助教授 黒岩宙司（8回生）

午後の便がとれ羽田から福岡空港に着いた。佐賀行きのバスに乗り、七月最後の太陽が照り付ける窓外の風景を見ながらもう何も変わらないと思ったが、横に座る妻に促され携帯を取り出した。順調に走れば五時前には佐賀駅のバスセンターに着く。山口から佐賀の病院へ直行した一番上の兄からメールの返信が来た。「了解。親父自宅に戻ってます。待ってます。」

窓外に視線を置いたまま私は今朝の出来事を思い出していた。福岡に住む二番目の兄から電話があったのは午前4時。「病院から電話があった。親父が心肺停止だと。俺は今から高速に乗る。また電話する」兄の声は緊張していた。

一月に母が倒れ父はつききりで看病をした。奇跡的に母は回復したが、看病の疲れからか今度は父の心臓が悪化した。姑息的な治療は功を奏さず、父は年齢的にも最後のチャンスと手術を決心した。三日前が心臓カテーテルの検査だった。せめてモニターはしていたのだろうか、何も迷うまいと心に決めていたはずなのに、雑念が脳裏をめぐった。

私たち兄弟は医師である父の判断にまかせていました。しかも入院は四十年勤務した病院だった。五月の中旬に父が入院してから何度か見舞いに行ったが、一度心不全から回復してからは、病室を出るときに父は必ず右手を差し出し、静かな瞳で見つめた。最後の別れになるかもしれないと覚悟していたようだ。二時間後に電話が入った。「親父が逝った。お袋と病院に行つたけど、心マッサージを二時間半していて、どうしますか、と聞かれた。お袋も父さんが可愛そうよ、と言って、やめてもらった」

実家では二人の兄が、夕方で幾分和らいだ夏の日差しが入る縁側でビールを飲んでいた。医大を卒業後、小児科医として佐賀県の病院で四十年勤め、退職後は自分のクリニックを持ち、七十九歳で入院するまで聴診器を持ち続けた父の葬儀は、身内だけで自宅でとりおこなうには

手狭だろうと斎場で行うことになった。兄たちは一通りの手配を終えたところだった。「担当の先生が当直で心臓が止まって一分くらいで駆けつけたみたい。万全の体制でやってもらっていたようで、どうしようも無かったようだ」。兄は静かに話した。

縁側から父の横たわる座敷に入った。座敷には母がぼつんと座わり父を見ていた。白い布の下の父の顔は安らかで、入院中ずっとぼさぼさだった髪は綺麗に散髪されていた。検査の前日に病室を抜け出して床屋に行ったらしい。私は冷たくなった父の顔を擦り、胸に組まれた手に触れ指に触れた。指の腹から、ひんやりとした柔らかい弾力が伝わってきた。「随分この手には殴られた」と、兄の声に応えたが、私の心は別にあった。

遠い昔のことだが、私たち子供が病気になると父が診察をした。白衣を着た父の指はいつも何かの薬品で青く染まっていた。父は聴診器を持ち丹念に胸の音を聞いた後は、必ず左手中指を私の胸に置きその上を右手の中指で叩いた。胸が終わるとくるりと体を回して背中を叩いた。父の打診は小太鼓のように綺麗な音を放ち幼心にもその職人技のような作法が好きだった。私は医学部に入り臨床実習が始まり、やがて研修医になって、聴診と打診をするようになったが、常にどこかに父の姿があった。冷たくなった父の指に無性に触れていたかった。触しながら父の死を早めたのは、兄弟の中でただ一人医者になり、父と同じ小児科医になりながら父のクリニックを継ぐ意志のなかった自分なのだと思った。

父は頑固な人だった。私の中には常に相反する心が存在した。父と多くのことを語り合いたかったが、上手く話すことができず、次第に父と話すことが少なくなった。それでも誰に言われるでもなく私は父と同じ小児科を選んだ。医者になって4年目にアフリカへボランティアー

で行った。それを機に、私の仕事は父のそれからは次第に離れて行った。私には父のクリニックで働く気にはなれなかった。元旦に家族の前で父が挨拶をするのは恒例だったが、その席で気丈な父がきつい、と口にしたのは二年前のことだった。

父の通夜と葬儀は佐賀駅の北にある斎場で行われた。入院中に一つ歳をとり、父は八十歳になっていた。生涯聴診器を持ち続けた小児科医の父の弔問は、幼い子供を連れた若い夫婦も多く、子供の頃に診てもらったという五十代の人もあった。棺の前にたたずみ、父の写真を見つめ、棺の中の父と対面し、涙を流した。父は患者にはさぞかし煩い存在と思っていたが、子供を診察する目はとても優しかったことを、弔問に来た人たちに教えられた。斎場は慈愛を含んだ不思議な空気が漂っていたが、それは人の生死に對峙しつづけた人たちに授けられるものなのかもしれない。やかましいことを言わなくなってしまった、何も喋らなくなつた父は饒舌に語りか

け、私は生まれて初めて父の言葉を素直に聞きつづけた。

出棺の前にクリニックの看護婦さんたちが紙袋を持ってきた。先生の診察服と聴診器を棺に入れてくださいと言う。私はクリニックにはほとんど行かず、看護婦さんたちの顔さえ知らなかった。しかし聴診器は見覚えがあった。医学部に入学した夏休みに帰郷したときに、父がうれしそうに目を細めてその優れた点得意げに説明していたものだ。棺に横たわる父の胸に青い診察服をかけ聴診器を右のポケットに入れられた。

火葬のあとには白い骨と灰、そして黒くなった聴診器の鉄の部分が残った。私は長い箸で父が子供たちの胸にあてた聴診器の先端部分を拾い骨壺に入れ、父が耳にあてた部分、子供たちの心臓と肺の音を聞いた部分を形見にもらつた。聴診器の鉄片は素手で持つにはまだ熱かった。

## おしどり？助教授奮闘記

佐賀大学医学部附属病院 リハビリテーション部 助教授 浅見 豊子（7回生）

平成16年7月1日に佐賀大学医学部附属病院リハビリテーション部の助教授に昇進いたしました。かたわれの浅見昭彦が平成12年7月にすでに佐賀医科大学整形外科の助教授になっておりましたですから、私の助教授就任にあたり、鳥帽子会の方より光栄なことに「おしどり助教授奮闘記」なるものを書くようにとのご連絡をいただきました。しかし、「おしどり」とおっしゃってはいただいたものの、私たちは果たして本当に「おしどり」なのかしらとまずは疑問のほうが先に生じました。そこで、まずは「おしどり」について調べましたところ、「おしどり」とは「鶯鶯」とたいそう難しい字を書く鳥で、カモの一種のようです。この鳥は雌雄常に一緒にいると信じられ、仲のよい（いつも一緒に外出する）夫婦のたとえにひかれる、と書いてありました。タイトルの中に「おしどり」という言葉をいただいたところは、眞実は別にしましても、私どもが常に一緒にいる

と信じてくださったためでしようから合致しているところではございますが、仲のよい（いつも一緒に外出する）夫婦というところになりますとだいぶ違うような感じもいたします。

私たちは二人とも第7回生でございまして、福岡大学に昭和53年に入学し昭和59年に卒業いたしました。学生時代の6年間を振り返りますと、多くの素晴らしい先生や先輩方からのご指導を受けることができましたし、私たちのなによりの宝であります多くのよき友を得、数々の思い出を作ることができました大変有意義な学生生活であったと思っております。

今年の鳥帽子会は、ちょうど私たちの学年が幹事学年でしたですから、多くの友が集まり、中には卒業以来という友との再会もでき、お蔭さまで懐かしく楽しいひと時を過ごさせていただきました。

さて、私たちは大学卒業後、それぞれに整形外科医師とリハビリテーション科医師を目指

し、私の地元の佐賀にあります佐賀医科大学（現在は佐賀大学医学部になっております）の医局に入局いたしました。競って勉強していたわけでもないのですが、二人とも佐賀医科大学大学院にも入学し、私のほうはその間に女児を一人出産し、私の悪戦苦闘ならぬ多戦奮闘記が周囲を巻き込みながらもここからスタートしたわけでございます。なにぶん、社会人としても、医師としても、研究者としても、妻としても、そして母親としても全てが新米なものですから、私よりも私をサポートしてくれていた周囲の者のほうが奮闘していたのではないかと思います。娘にしましても、好むと好まざるとも、最近話題になっております幼保一元ではなく、3歳前から幼稚園に4年間もお世話になり、さらに幼稚園の春・夏・冬の休暇期間は保育園にまでお世話になるという幼保二元？で幼児教育を受けており、近くに住んでいました祖父母がかわいがってくれていたとはいえ、両親不在の多い中寂しい思いもしていたようでした。本当にどんなに欲目でみましても、今日の私があるのは本人の力より周囲の協力のお陰だと密かに感謝しているわけでございます。

さて、卒業から数えますと20年という奮闘の日々を経た今年、私がますます忙しくなるのを察してかどうかはわかりませんが、娘は私たちとは異なる道である歯科医を目指して大学に入り親元からは巣立ってしまいました。つま

り、この春より夫婦二人の生活に18年ぶりにもどり（今年はめでたく磁器婚式を迎えたわけなのですが）、いよいよもっておしどりにならざるをえない状況となってまいりました。ただ、まだまだお互い時間的にゆとりのない生活をしておりますので当分の間は不可能な状況ではございますが、銀婚式あるいは真珠婚式を迎える頃には本当の意味でのおしどりになれますことを願いながら、公私ともにこれからも頑張ってまいりたいと思っております。

最後に隣県より福岡大学医学部の皆様のますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今後ともどうぞよろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。



浅見昭彦 同豊子ご夫妻（ともに7回生）

## ヒューストンより

福岡大学医学部 外科第一 医員 佐々木 隆光（19回生）

私が留学しているUniversity of Texas, MD Anderson Cancer Center (MDACC) はテキサス州ヒューストンのTexas Medical Centerの一角にあります。Texas Medical Centerは、ダウンタウンから車で約20分程のところに位置し、600エーカーの敷地内に40以上の医療機関、教育機関が隣接しています。MDACCはその中核をなし、年間総予算8億3千万ドル、職員数9千人、設立以来50余年の間の累計癌患者数40万人、年間外来受診患者数37万人、年間新規癌患者2万人、年間臨床試験参加癌患者6千人、昨年1年間に実行されていた臨床試験数531ト

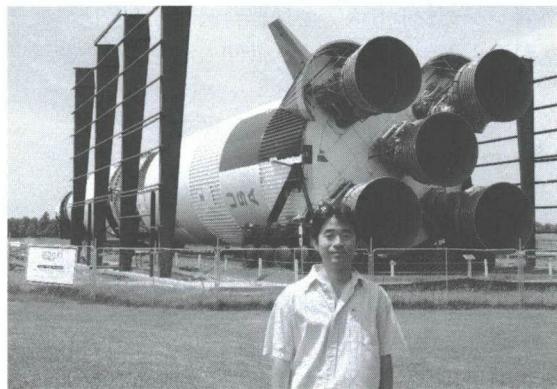
リアル、内外（特にNIH）から得られたファンド1億4千万ドルという巨大医療機関です。

私はここDepartment of Cancer BiologyのDr. I.J. Fidlerの下でいくつかの実験を行っています。一つは、分子標的治療に関するものです。近年、癌細胞や癌細胞をとりまく周囲の環境、担がん宿主における生物反応が分子レベルで明らかになってきました。そのことが、分子標的治療を可能にし、現在さまざまな臨床トライアルが行われる段階までけています。現在日本で、最も注目されている分子標的薬はEGF受容体チロシンキナーゼ阻害剤であるZD1839

(イレッサ)だと思います。ZD1839はEGFRのチロシンキナーゼ活性を選択的に阻害し自己リン酸化を抑制して増殖、浸潤、分化、転移に関するシグナル伝達経路を遮断することにより抗腫瘍、抗痛作用を発現すると考えられています。その他にも、PDCFRやBcr-Ablのチロシンキナーゼを強力に阻害し、腫瘍細胞の増殖を防ぐST1571（グリベック）は慢性骨髄性白血病に、HER2/neuに作用するハーセプチニンは乳癌に効果を示しています。私は、EGFRとVEGFRの両方のチロシンリン酸化を阻害する薬剤を使い、大腸癌、肺臓癌をモデルにin vitro, in vivoの実験を行っています。幸いにも、大腸癌、肺臓癌の双方に腫瘍抑制効果が確認されました。抗腫瘍効果以外に抗新生血管作用があるのではないかと現在解析を行っています。

もう一つのテーマは、癌の転移、浸潤に関する遺伝子、蛋白質の同定です。癌の転移は、原発巣での増殖、周囲の間質への浸潤、濁流の血流内での生存、転移巣の血管内皮細胞との接着、再び周囲の間質への浸潤、転移巣での増殖のすべてのステップが完成したときに成立します。これらのステップの中で、私の実験テーマは血管内皮細胞と癌細胞の接着に関するもので

す。癌の種類や同じ癌でもクローニングの違いで、血管内皮細胞との接着能に違いがあります。また、肝臓、肺、脳、皮膚、腎臓など各臓器の血管内皮細胞に対する接着能にもそれぞれ違いがあります。これらの違いが転移能の違いとして、それぞれの癌細胞を特徴付けていると考えられます。これらの違いを、マイクロアレイやプロテオミックスの手法を使い解析し、癌の転移に関する遺伝子、蛋白質を同定しようとしています。将来、診断、治療効果、再発のマーカーになればと、夢を膨らませています。



NASAにて 筆者

## ～武者修行の勧め～

虎の門病院 外科レジデント

三 原 誠 (25回生)

### ＜研修医事始＞

2002年4月6日、東京都港区にある虎の門病院の1室で、レジデントとしてのオリエンテーションが始まった。同年代の研修医の中では最も早い研修医始業式である。住居は病院内7階に2人部屋。8畳1間に2人分のベット、お風呂は40人で2つのシャワールーム。北側の部屋は霞ヶ関ビルや、皇居、警視庁、総理府官邸等々「TOKYO」を肌で感じられるが、南側の部屋の窓は、受け持ち患者さんの部屋と対面であった。そんな大都会で2年間に渡る研修医生活が始まった。

### ＜自己紹介＞

初めてまして、2002.3月福岡大学医学部を卒

業しました三原 誠です。在学時代は、剣道部・ラグビー部（OBの高木会長にも非常にお世話になりました）に兼部し楽しい学生生活を送りました。6年目までラグビー、剣道共に西医体・九山に出場。飲み会にも多数参加しました。授業の出席率も芳しくありません。しかしながら、4年生の後半から臨床系の授業が始まわり講義に興味を持ち始め、本格的に勉強し始めました。研修医生活を大学病院でなく、臨床研修病院でやってみたいという希望をうつら持ち始めたのもこの時期です。

### ＜虎の門病院レジデント制度＞

外科レジデントとして消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺内分泌外科、呼吸器外

科、一般外科、麻酔科、放射線診断科を10週間ずつローテーションします。「たったの10週間じゃ、意味が無い」と思われる方もおられるかもしれません、受け持ち患者さんが多く（當時20-30人程度）、時には激しくうろたえながら、医師としての宝となる「経験」のシャワーを体中に浴びる事になり、知らず知らずのうちに最低限の知識は体に染み付きます。ちなみに虎の門病院では研修医という名称は使わず、レジデントとよばれています（アメリカの臨床研修を範としているため）。内科レジデント12人、外科レジデント5人、泌尿器科医師1人、産婦人科医1人、眼科医1人、計20人が同期の内訳です。

#### ＜虎の門病院紹介＞

1958.5.20に国家公務員共済組合連合会の保健福祉施設として開設。病棟は本院・分院合わせて1209床、1日平均4000人以上の外来患者が訪れます。同期には、東京大学を始め、東北大学、東京医科歯科大学、名古屋大学、岡山大学等さまざまな大学から研修を受けに来ています。

#### ＜同期達への驚き！！＞

よく仕事し、よく勉強しています。1週間に1-2回はレジデントによる勉強会が開かれます。自分達の経験を持ち寄って外科、内科、泌尿器科、眼科、産婦人科などの同期や、先輩医師達が集まり夜も遅くまで、時には冗談を言しながら、いろいろな疾患について勉強します。レジデントは病院内に同居しているため遅くまで相談しあえることが、大きな大きな強みです。留学経験のある者がいたり、10年目以上の先輩医師とイングランドジャーナルの論文について論議している者もいたり、次のステップとして国立癌センターや、国立循環器センター、アメリカの医師免許の受験勉強をしている者もいます。僕自身周りにも影響されながら、楽しく愉しく研修しています。

#### ＜研修病院必修化に備えて後輩へ＞

夏休み見学は、毎年200人近い医学生が見学に訪れます。今年（2003）は200人程度の受験

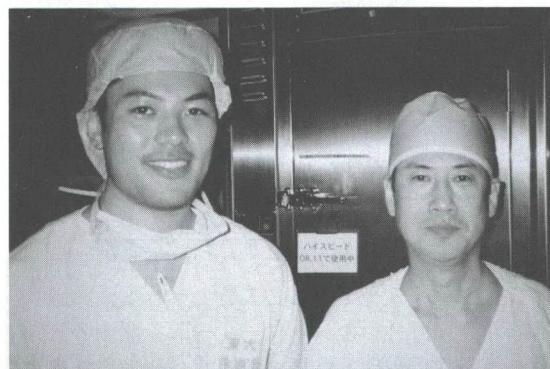
者数だったそうです。人気ある病院が本当に良い臨床研修を行っているかというと、実情はそうでもないですが、他大学との交流の場としては大変意義があると思っています。ぜひぜひ物語じせず門を叩いてみてください。

#### ＜最後に＞

「研修に虎の門病院なんかもいいんじゃない」僕自身将来について悩んだ時期もありましたが、第1内科の田村教授の言葉がきっかけで東京に来る事となりました。後輩が悩んでいる時は先輩がアドバイスをする義務があります。東京の病院にて研修を考えている方があれば出来るだけ相談にのりたいと思っています。まずは連絡ください。

勢揃に磯八、魚平、ノースショア、そして共に笑い、泣いた友人達を恋しく思う時があります。やはり福岡大学医学部は我が母校です。できる事は力になります。

現在は、研修医を終えて東京大学形成外科に入局、日々、先天疾患や、癌の再建、マイクロサーボリードの技術を勉強しています。連絡いただければ相談に乗りたいと思っています。後輩の皆様方、スーパーローテーションの2年間だけでもいい経験に成ると思います。連絡待っています！！



東京大学肝胆脾・移植外科に肝移植を見学に行った際、幕内雅敏教授との1枚

東京大学形成外科 三原 誠

(mihara33@yahoo.co.jp)

住所：〒112-0001 東京都白山2-23-2 ガーデンハイツ102号

TEL：090-7460-8405

## クラス会便り

## 10年ぶりの出会い

福岡大学医学部 産科婦人科学 助手 田 村 理 子 (17回生)

私は平成6年に卒業し、産婦人科に入局して10年になる。この10年色々な事があったが、今思えばあつという間でもあった。同級生は皆ばらばらになり、医師として立派になった者、家族が出来た者、様々である。福岡大学病院内で勤務している同級生も数名はいるが、毎年何人かは入れ替わっている。そんな中でも時々は廊下で立ち話をしたり、患者さんの相談をしたり、ある時は飲みに行ったりとやはり心許せるのも同級生である。その同級生の一人、脳神経外科医で今は救命救急病棟で毎日忙しく働いている岩朝光利先生から、今年は17回生が福岡大学医学部同窓会の副幹事であるため、その仕事をするようにと言われた私は、断ることも出来ず（学生時代から岩朝先生は兄貴的存在でいやとは言えない相手なので）今回の大仕事のお手伝いをする運びとなつた。

主幹事である7回生の山本正昭先生を中心に、私も数回の準備委員会に出席した。17回生は恥ずかしながら、医学部卒業アルバムがなく、徴収したはずのアルバム代が行方不明というルーズな学年である。山本先生より10年を機にアルバムを作成してはどうかと提案があり、現在の仕事をしながら作成することに不安

を感じたが、ルーズな学年という認識をなくすためにも作成するしかないと決断した。作成をはじめてみると、写真館には当時の写真が残っており、また徴収したお金も見つかり、17回生のアルバムは10年目にしてやっともうすぐ出来上がる予定である。アルバム作成は本当に大変だったが、作成に協力してくれた泌尿器科の入江慎一郎先生、いづみ産婦人科の鋤本祥子先生には大変感謝している。

さて7月10日の福岡大学医学部同窓会は多くの同窓生が出席し盛況に終わり、お手伝い出来たことを光栄に思っている。卒業以来一度も会っていなかった同級生にも再会し、年月を越えて学生時代に若返ったような思いで楽しい時を過ごした。17回生だけで2次会、3次会と夜遅くまで飲み歩いたが、さすがに最後の店では殆どの者が眠ってしまい、その姿を見て10年経ったのだなあと痛感した。そんな10年経った凜々しくも時折見せる少し疲れ気味の姿と、卒業アルバムに写し出された若い笑顔の二面に再会でき、本当に懐かしく良い想い出となった。そして、それらを明日からの励みとしてまた頑張りたいと思う。



クラブ生きて30年

## バレーボール部生きて30年

福岡大学筑紫病院 内科第一 教授 浦 田 秀 則 (3回生)



平成15年度バレーボール部OB戦にて

福岡大学医学部バレーボール部は30年前に第二回生を中心として発足した。当初は伊藤、重田、坂本、小島、福島、前川などのメンバーによって構成されていた。筆者は三回生として次の年に入会した。そしてその年の九州山口医学生体育大会へ出場し、リーグ戦で8試合行ったが全敗した。それが本当に悔しくて、その年の西日本医学生体育大会では前年度の大会で三位だった大阪大学と予選リーグで死闘となり、最後に大逆転してリーグ戦に勝ち残り二日目の決勝トーナメントへ進んだ。一日目のリーグ戦で負けていた山口大学にも二日目は勝ってトーナメントを勝ち上がったが、その次の試合で破れ、準々決勝へは進めなかった。しかし春には一勝もできなかつたチームが夏には息を吹き返したように活躍でき、一日目で帰る予定で予約していた新幹線の券がフイになってしまい大きな損失となったことを憶えている。

このようにバレーボール部の創設期には私たち三回生も含めて14, 5名のバレーボール部員がいてかなり活気があった。ところが昭和49年度の夏の大会で勝つ喜びもしくは味を覚えたために、その年

の秋から練習を高校バレーボール並に厳しくした結果、部員が次々と離れていく最後に残ったのは9名程度となった。しかしその次の年の昭和50年度の九山大会では4位、また西医体ではベスト8に進出することができ、部員は減ったが成果をあげることはできた。この時の大会には当時学生部長であられた現在の菊池副学長も、京都大学の暑い体育館に学生課の係であった権藤事務員と一緒に訪れていただき、多大なご声援をいただいたことを今でも鮮明に憶えている。残念なことにその当時の試合では部員がかなり少なかったため、ベンチにほとんど人がいない状況だった(いても2, 3人程度)。よその大学のチームを見るとドクターの監督のような方がいて、さらにマネージャーとか部員とかでベンチは人であふれかえっているような状況のチームが多くあった。その当時強かった久留米大学などは30名くらいの部員がいて2軍をつくっても試合ができるような素晴らしいチームであった。我々は少数精銳とわりきって試合に臨んでいたが、練習にも支障をきたすような状況であり、非常に厳しい創設期でもあった。

このように練習を厳しく行うと部員が離れていく、逆に部員を確保しようとすると練習が甘くなり試合では勝てないという糾余曲折がその後の十年間くらいはあったと思う。

我々が卒業してしばらくしたころ、バレーボールの実力としては最も高い時期があった。その当時、アタッカーとして高校総体が三人揃ったことがあり、このチームで勝てなければ私もだめだと思っていたが、チームワークや練習の状況、怪我による脱落等でこのチームもさほど素晴らしい成績を残すことができなかった。その時がバレーボールとしては最高位を得ることのできるチャンスではあったが、他の部が西医体や全医体で優勝するような中で後輩達は苦しい思いでバレーボールを存続させてきたと思う。平成3年度からは女子バレーボールが発足した。男子の成績が今一つ伸びない状況にも関わらず、女子のバレーボールは男子を相手に練習する機会があったためか着々とその実力を蓄え、平成7年度には九山優勝、西医体ベスト8、全医体優勝という輝か

しい成績を残した。この成績が現在までのバレーボールでは最高の成績であろうし、またこれ以上のものは今後もないかもしれません。

バレーボールも30年たち、当時の創設のメンバーを含めた後輩達が年に一度は集い、最初の頃の部員、その後の苦しかった後輩の世代、それから若々しい最近の人達と楽しく懇談する機会があることは本当に喜ばしいことである。人と人との付き合いは学生時代だけでないことを本当に実感する時である。私は昨年度よりバレーボールの顧問を拝命し、このバレーボールを今後いかに強くするかに頭を悩ましている。現在のバレーボールは男子も女子も部員の数には恵まれているようで、これは非常に大きな力であるし、また成績を問わず人間が育つという意味で非常に楽しく頼もししい集団である。このような人の和を基にして今後のバレーボールを後輩達が更に大きく育ってくれることを期待して止まない。

以上簡単ではあるが、バレーボールの小史と現状についてご報告した。

## 柔道愛好会30年を迎えて

病理学 教授 竹下盛重（3回生）

放射線部 助手 黒岩大三（16回生）

福岡大学医学部が1972年に開設され、その4年後に柔道愛好会は出来ました。はじめは山崎と竹下の2人で柔道部に入部した形で始まりました。部長は、当時精神科助教授村田豊久先生でした。竹下はまだ白帯で、いつも山崎そして柔道部の同輩にいじめられていきました。そういうしている間に山崎弟、天田が入り、倉光、後藤、金、中山、松村、立石、松本らが入りました。初めての西医体は3人で出たのではないかと記憶しています。

1978年に本大学が主管で九山大会が開催され、はじめてまともな形で団体戦をしました（写真1）。やはり主管をすると、全クラブがまとまりそれが競い、いい刺激になっていました。これぐらいからはもうかなり練習は重ねており、その翌年、創部4年目、西医体で3位になることが出来ました。影の立役者は試合中痛分けをしてくれた松村でした。また個人戦では金が3位になりました。実はその3ヶ月間はかなりハードな練習で、泊り込み合宿では、飯も食えない奴が出るほどやりました。その合宿中、金と中山の「笹丘神学校昔処刑場物語」

をみんなで聞き恐怖に慄き寝たのを覚えていました。みんな苦しい、いい思い出です。その想い出を綴った部紙「若人そして夢」を作りましたが、その中には当時の自由奔放な気持ちがそのまま詰まり、我々の財産です。練習前のイヤーな気持ちをヒューリック風で表現したT君、病院の横に柔道場を作るT君、その時の夢がいっぱい今読んでも楽しいものです。

1980年、部長は口腔外科の都温彦先生になり、現在に至っています。1987年の西医体は福大主管でした。部員は別當、稻田、秋田、田中、正木、細谷、黒岩でした。当時の練習は、本学の柔道場のかたすみで行われていたのですが、主管校がなき成績ではいかんという事で、本学の高野監督からもずいぶんしごいていただきました。先生の「医学部～っ！」前に立て～っ！」の掛け声が、へとへとの部員には鬼の掛け声に聞こえた様です。もう、自分がどんな体勢で投げられているかもわからない、いわば人形状態でした。しかし、練習はこれでは終わません。疲れきった体をひきずりながら部室へ歩いて帰っていると、医学部からT君が意気

揚々と走ってくるのです。Tは「練習が短すぎる。もうちょっと汗流そう」と言って皆を道場へ連れ戻すのです。そこからの練習は、思い出すだけでも吐きそうなもので、正木は「ああ、この人は仕事の鬱憤をこの練習で晴らしているんだ」と感想していました。しかし、彼らも卒業し、愛好会の飲み会では、当時の練習の事を話す時が最も楽しそうで、一生懸命に打ち込んでいた時の事が一番の楽しい思い出になっています。

その後、黒岩、太田、川本なども仕事の合間をぬって学生の練習に参加しています。都先生も部長歴25年が過ぎても柔道着に袖を通され練

習に参加しておられます。皆、柔道に対する熱い気持ちを後輩に伝え現在に至っています。

2004年現在部員は薬学部も含め11人となり、本年度は福岡医歯薬戦優勝（写真2）、九山大会準優勝と愛好会としても活気づいてまいりました。段々と自力を付けてきました。我々の信条である「できる限り集中努力し自分を追いこんで技を極める」という気持ちを持って今後もクラブを発展させていきます。

2005年は、九山、西医体優勝するぞー。最後にここに名前が出なかった部員の方、失礼しました。

（分責、竹下盛重、黒岩大三）



写真1 若き日の松本直樹氏、山崎剛氏、飯田博幸氏。



写真2 キャプテンは、M4利木成広でした。

## 卓球愛好会創立30周年によせて

卓球愛好会 森 下 哲哉（7回生）



“最初に九山を主管した昭和53年当時、  
福岡市民体育館で撮影”

老若男女、時間天気を問わず楽しめるスポーツ、それが卓球です。私は産科開業医のはじめですが、患者しだいで年中無休のような勤務でのストレス解消には卓球はうってつけて、暇なときに短時間でもいい汗をかけるので今だに続けています。そのせいで我が卓球愛好会にも時々顔を出し続けていたせいか、今回30周年の寄稿を賜りました。一口に30年といつても各年代の、多くの方々の御苦労の積み重ねでこの部が続いており、私一人では到底言い表せないのでOBの方々の言葉をいただきながら筆を走らせました。

### 顧問の変遷

昭和49年の創立当時から御尽力いただいた永

田武明先生（法医学教授）には、まだ部員が少ない事もあり法医学教室のスタッフを引き連れて、新生卓球部を昼となく夜となく盛り上げていただきました。おかげで、なんとか卓球部が軌道に乗りました。法医学界の面白い話やこの愛好会のつながりの大切さをよく語られました。そんな雰囲気の中、木村恒二郎先生（5回生）は学生時代から法医学教室に入り浸っておられました（現在は広島大学法医学教授です！）。

昭和61年には永田先生が九大法医学教授になられたため、薬理学の山田勝士助教授が顧問となられました。我が部を“卓球班”と呼ばれ、面倒見がよく、気さくに明るい笑顔で我が部を可愛がってもらいました。

山田先生が鹿児島大学薬理学の教授に御栄転のため、平成7年から法医学教授の柏村征一先生が引き継がれました。温厚に部員一人一人に細やかに暖かく気を配っておられました。今でも飲み会には参加いただいております。

平成14年からは現在の向坂彰太郎先生（第3内科教授）に引き継がれました。部始まって以来初めての卓球経験者の顧問の先生です。皆様に寄付をお願いして卓球台を増やしたり、明るくそして卓球には情熱的にきびしく、積極的に部員にハツパをかけられており、また合宿の構想なども考えられていて、一段と部に活気がみなぎっています。

#### 練習場の変遷

最初は藤崎の勤労青少年スポーツセンターにバスと電車を乗り継いで通っていたそうです。数年後から長尾のサンスポーツという私営卓球場に車かバスで通いました。昭和55年頃サンスポーツがツブレたので、第一記念会堂の地下でやったり清水の平松卓球場に通いました。昭和57年頃、医学部研究棟地下のコンクリート敷きの倉庫を借りて台4台で練習できるようになりました。フェンシング部と床を共同出資して張り、交代で使った時代もありました。平成3年頃、生化学教室が使用するので研究棟地下が使えなくなり、現在の講義棟2階に移ったそうです。

現在月、水、土の週3回、17:00～19:30に4台で練習しています。このように見てみると今の練習場はその近さ、明るさ、床がほこりが

舞い上がるコンクリートではない事など恵まれるようになったなと感じます。

#### 栄光の記録

4天王！と呼ばれた創立当時の常安晶子先生、道管量子先生、森奈津子先生、末村泰子先生は、皆卓球経験はなかったのですが、練習を積んでみごと九山女子団体3位となりました。また小山祐之介先生（9回生）は九山個人戦3位まで上り詰めました。さらに中川内玲子先生（20回生）はなんと九山個人戦優勝という偉業を成し遂げています。大西克樹先生（25回生）は西医体個人戦でベスト16に2回も入りました。

九山で我が愛好会が主管を努めたのは2回あり、各々小田島安平先生（3回生）、中村友紀先生（24回生）を中心に部員一丸となって務めあげました。

#### 最近の状況

最近は愛ちゃん効果もあってか部員20人と増え、とくに今年は卓球経験者が、1年生に2人も入りました。今年の西医体では個人戦に4回戦進出が2人と健闘しています。部内のモチベーションがあがっており、今後は高いレベルでの健闘が期待されています。

最後に飲み会で皆が思うのはこの楽しい汗、気持ちよさを共有した仲間が、貴重な財産であり、いつまでも部員、顧問の先生そしてOBが仲良く、今後の様々なシーンで助け合い、楽しめる集団であってほしい事です。OBの方々も時間が許せば気軽に練習を見にいったり、新歓



“柏村教授、向坂教授を囲んで  
現役部員とOB”

● キャンパス便り ●

コンパ（4月か5月）やOB戦＆追い出しコンパ（11月）に参加して自らもリフレッシュしま

しょう。卓球部のさらなる発展を祈って終わりの言葉とします。

## キャンパス便り

### 九山・西医体の総括

西医体福大支部委員長 上村徳郎 (M4)

今年はアテネオリンピックが開催され、例年になくスポーツへの関心が高かった一年でした。その今年度行われた九山・西医体について総括したいと思います。

九山大会では団体戦での健闘が目に付きます。ラグビー、サッカー、ゴルフ、ソフトボールは3位に入賞し、柔道は2位でした。

また個人戦での活躍も目覚しく、福大のサークル活動レベルの高さを九州内外に知らしめた大会となりました。

西医体は相次ぐ台風の襲来により実力を發揮し難かった大会となりました。

全医体出場のアーチェリーは個人で男子優

勝、女子準優勝とこの上ない結果を残すことができました。

私が一年間の西医体福大支部活動のなかで感じた今後の強化策は、設備の充実です。

卓球部は教室の前の廊下が練習場ですし、そのほかのサークルも体育館にお金を払って借りているところも多いです。道路の工事で利用できるグランドも縮小しており、サークル活動の強化という点において正念場を迎えております。

今後はよりよい練習環境の整備を目標に西医体福大支部の運営を進めていく必要性を感じました。

### 平成16年度 第56回西日本医科学学生総合体育大会結果一覧

愛好会名	結果
ラグビー	1回戦敗退
バスケットボール	2回戦敗退(男・女)
準硬式野球	1回戦敗退
ゴルフ	団体第13位
剣道	団体ベスト16(男),予選リーグ敗退(女) 男子新人戦ベスト16(M2松本) 女子個人戦ベスト16(M3鬼頭)
サッカー	ベスト16
バレーボール	1回戦敗退(男・女)
硬式庭球	1回戦敗退(男・女)
柔道	ベスト8
卓球	1回戦敗退(男)・2回戦敗退(女)
空手道	個人ベスト16 M5小牧
ソフトテニス	2回戦敗退(男)、1回戦敗退(女子)
漕艇	予選敗退
バドミントン	団体2回戦敗退(男)、団体1回戦敗退(女)、個人男子ダブルスベスト16 M6佐々木M1吉見ペア
水泳	個人 50mフリー決勝進出 9位 M3進藤
弓道	団体第32位(男・女) 男女 個人予選負退

平成16年度 全日本医科学学生アーチェリー競技大会

個人 男子の部 優勝 M5 林 賢正

個人 女子の部 第2位 M4 加藤 千明

# 福岡大学医学部同窓会資料

## 平成15年度収入支出決算

区分	科 目	15年度予算	15年度決算	収支差引	摘要
収 入	繰 越 金	6,700,000	7,827,825	▲1,127,825	
	会 費 収 入	20,885,000	27,638,615	▲6,753,615	入会費:5,467,090 学年会費:5,373,510 年会費:16,798,015
	協賛金収入	1,000	0	1,000	
	手数料収入	800,000	675,220	124,780	
	雑 収 入	600,000	278,911	321,089	グッズ売上:241,340 その他:37,571
	預り金収入	240,000	213,285	26,715	給与源泉徴収税:213,285
	積立金繰入	5,292,000	0	5,292,000	パニックマニュアル発行経費として
	仮 受 金	0	1,200,000	▲1,200,000	同窓会勘定から代理店勘定に資金振替
	合 計	34,518,000	37,833,856	▲3,315,856	
支 出	給 与	4,660,000	4,403,530	256,470	職員2人 パート1人
	旅 費	1,952,000	1,645,695	306,305	
	事務用品費	360,000	302,998	57,002	
	印 刷 費	6,733,000	6,066,042	666,958	会報:1,507,800 パニックマニュアル:4,226,250 その他:331,992
	通信運搬費	2,327,000	1,475,308	851,692	電信電話:90,354 郵送料その他:1,384,954
	設備工事費	100,000	885,300	▲785,300	ホームページ作成:630,210 保守契約料その他:255,090
	什品備品費	200,000	217,003	▲17,003	
	事 業 費	10,050,000	6,479,436	3,570,564	支部対策:1,092,210 研究奨励:1,431,605 学生対策:3,313,029 その他:642,592
	会 議 費	1,630,000	1,545,479	84,521	理事会ほか:1,152,115 私大連絡会:393,364
	公租公課	70,000	70,000	0	法人県民税
	雑 費	1,732,000	4,048,783	▲2,316,783	私大連絡会:838,521 渉外費:1,312,675 グッズ作製費:938,470 その他:959,117
	預り金支出	240,000	213,512	26,488	給与源泉徴収税
	引当金積立	2,000,000	0	2,000,000	刊行物積立金積立取り止め
	仮 渡 金	0	1,200,000	▲1,200,000	同窓会勘定から代理店勘定に資金振替
	予 備 費	2,464,000	0	2,464,000	
	合 計	34,518,000	28,553,086	5,964,914	
	収支差引	0	9,280,770	▲9,280,770	

## 平成15年度残金処分(案)

残 金 額 ( 収 支 差 引 額 )	9,280,770円
◆ 次 年 度 繰 越	6,280,770円
◆ 事 業 積 立 金 積 立	1,000,000円
◆ 刊 行 物 積 立 金	2,000,000円

## 平成15年度特別会計決算(案)

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前 年 度 より 繰 越	90,774,556	3,061,965	6,007,042	99,843,563
本 年 度 増 加 額	6,000,000	0	0	3,000,000
本 年 度 受 取 利 息	31,921	1,183	1,925	35,029
本 年 度 減 少 額	0	0	0	0
本 年 度 未 決 額	93,806,477	3,063,148	6,008,967	102,878,592

## 平成15年度財産目録

平成16年5月31日現在

	一般会計	特別会計	合 計	特別会計内訳		
				事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金
I 資産の部	11,514,401	102,878,592	114,392,993			
1 流動資産	11,366,617	102,878,592	114,245,209			
①現預金	9,280,770	102,878,592	112,159,362	93,806,477	3,063,148	6,008,967
振替口座	627,600	0	627,600			
郵便通常貯金	5,565,839	0	5,565,839			
郵便定期貯金	0	3,594,808	3,594,808	3,594,808		
普通預金【福銀】	3,087,331	20,004	3,107,335		20,004	
定期預金	0	99,263,780	99,263,780	90,211,669	3,043,144	6,008,967
福岡銀行	0	82,400,319	82,400,319	73,348,208	3,043,144	6,008,967
福岡シティ銀行	0	16,863,461	16,863,461	16,863,461		
現金	0	0	0			
②未収金	0	0	0			
③有価証券	0	0	0			
④棚卸資産(同窓会グッズ)	2,085,847	0	2,085,847			
2 固定資産	147,784	0	147,784			
①有形固定資産	0	0	0			
②無形固定資産	147,784	0	147,784			
II 負債の部	0	0	0			
III 正味財産(I+II)	11,514,401	102,878,592	114,392,992			
IV 前年度末財産	12,371,985	99,843,563	112,215,548			
V 増加額(III-IV)	-857,584	3,035,029	2,177,445			

## 平成16年度事業計画

項目	摘要	必要経費 (A)	科 目 内 訳	平成15年度 (B)	比 較 (A-B)	備 考
会報の発行	印刷代：春220×3,900部=858,000 秋220×4,500部=990,000 封筒代：15×9,000枚=135,000 郵送料：110×6,000通=66,000	2,643,000	1,983,000 660,000	3,147,000	504,000	
総会開催	総会準備会費	200,000	200,000		200,000	0
支部活動援助	講師招聘援助費：50,000×10支部=500,000 支部活動費：2,000×500人分=1,000,000	1,500,000	1,500,000		1,600,000	▲100,000
研究奨励賞	5件以内	1,500,000	1,500,000		1,500,000	0
在外研究援助金	1件20万円以内	800,000	800,000		0	800,000 新設
学生対策	新入生歓迎会：800,000(Tシャツ含む) M4激励会：700,000 国試激励会：700,000 国試慰労会：300,000	2,500,000	2,400,000	100,000	2,900,000	▲400,000
白衣贈与	BSL用長衣、短衣：9,000×110人=990,000	990,000	990,000		990,000	0
国試対策費	国試対策費：200,000 副担任会議：250,000 国試応援費：200,000	650,000	400,000	250,000	650,000	0
支部祝儀贈与	支部発足：50,000×2=100,000 支部会参加：30,000×10=300,000	400,000	400,000		400,000	0
学生行事援助	西医体、全医体、医学祭援助：400,000 学生行事への参加：100,000	500,000	500,000		500,000	0
慶弔贈与	祝儀、弔慰金、見舞金：20,000×5=100,000	100,000	100,000		60,000	40,000
グッズ作製	グッズ作製(ネクタイ、ネクタイピン)	1,500,000		1,500,000	500,000	1,000,000
会員名簿の発行	調査郵便代：160×2,500=400,000 調査用封筒印刷代：10×3,000×2=60,000 名簿印刷代：1,100×3,500=3,850,000 送付用封筒代：20×3,500=70,000 名簿郵送代：245×3,000=735,000	5,115,000	3,980,000 1,135,000		0	5,115,000 次回は平成19年度
ハニックマニュアルの発行	(今年度は実施せず)	0			5,292,000	▲5,292,000 次回は平成20年度
奨学金緊急貸与	緊急時における奨学金の貸与	1,000,000	1,000,000		1,000,000	0
合 計		19,398,000	9,790,000 5,963,000 1,795,000	250,000 1,600,000 18,739,000	659,000	

## 平成16年度収入支出予算

区分	科 目	15 予 算	16 予 算	16 摘 要	16予算-15予算
収入	繰 越 金	6,700,000	4,000,000		▲2,700,000
	会 費 収 入	20,885,000	22,101,000	入会費:4,738,000 学年会費:4,220,000 年会費:12,643,000 過年度会費:500,000	1,216,000
	協賛金収入	1,000	2,000,000	会員名簿広告掲載料	1,999,000
	手数料収入	800,000	700,000	集金手数料:三井700,000	▲100,000
	雑 収 入	600,000	430,000	グッズ売上:330,000 その他:100,000	▲170,000
	預り金収入	240,000	216,000	給与源泉徴収税	▲24,000
	積立金繰入	5,292,000	3,000,000	烏帽子会会員名簿第8号発行経費として	▲2,292,000
	仮 受 金	0	0		0
	合 計	34,518,000	32,447,000		▲2,071,000
支出	給 与	4,660,000	4,420,000	職員2名、パート1名	▲240,000
	旅 費	1,952,000	1,890,000		▲62,000
	事務用品費	360,000	360,000		0
	印 刷 費	6,733,000	6,298,000	会報:1,848,000 会員名簿:3,850,000 その他:600,000	▲435,000
	通信運搬費	2,327,000	2,415,000	電信電話:120,000 郵送料その他:2,295,000	88,000
	設備工事費	100,000	310,000	ホームページ維持契約:210,000 その他:100,000	210,000
	什品備品費	200,000	200,000		0
	事 業 費	10,050,000	9,790,000	支部対策:1,900,000 研究奨励:2,300,000 学生対策:4,290,000 奨学金貸与:1,000,000 その他:300,000	▲260,000
	会 議 費	1,630,000	1,500,000		▲130,000
	公租公課	70,000	70,000	法人県市民税:70,000	0
	雑 費	1,732,000	3,632,000	涉外費:1,200,000 グッズ作製費1,600,000 その他:832,000	1,900,000
	預り金支出	240,000	216,000	給与源泉徴収税	▲24,000
	引当金積立	2,000,000	0	本年度積立中止	▲2,000,000
	仮 渡 金	0	0		0
	予 備 費	2,464,000	1,346,000		▲1,118,000
	合 計	34,518,000	32,447,000		▲2,071,000
	収入差引	0	0		0

### 教育職員人事（併任講師以上）

(○内の数字は福大医学部卒業回)

[平成16.4.2~16.10.1]

区 分	所 属	資 格	氏 名	発 令 日	摘 要
退 職	筑紫放射線科	併任講師	小 野 広 幸 ⑦	16. 9. 30	一身上の都合
昇 格	心臓血管外科学	教 授	田 代 忠	16. 10. 1	
	筑紫内科第一	助 教 授	山 之 内 良 雄 ⑦	16. 10. 1	
	筑紫脳神経外科	助 教 授	風 川 清	16. 10. 1	
	消 化 器 科	講 師	前 田 和 弘 ③	16. 10. 1	
	消 化 器 科	併任講師	西 村 宏 達 ⑯	16. 10. 1	

## 医局長・医長名簿

(○内の数字は卒業回、筑紫病院の\*印は内科・消化器科の代表)

平成16年10月現在

所 属	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
[ 福 大 病 院 ]			
血 液 ・ 糖 尿 病 科	高 田 徹	高 松 泰	鈴 宮 淳 司
循 環 器 科	辻 恵美子	白 井 和 之 ⑧	熊 谷 浩一郎 ⑦
消 化 器 科	早 田 哲 郎 ⑪	西 村 宏 達 ⑯	喜 多 村 祐 次 ⑬
腎 臓 内 科	小 河 原 悟 ⑦	武 田 誠 司 ⑪	笛 富 佳 江 ⑬
呼 吸 器 科	白 石 素 公 ⑪	久 良 木 隆 繁	石 橋 正 義
神 經 内 科・健 康 管 理 科	坪 井 義 夫	井 上 展 聰 ⑯(6北)	藤 木 富 士 夫 (神經)
"		宗 清 正 紀 (7階)	上 原 吉 就 ⑯(健管)
精 神 神 經 科	河 野 耕 三	石 井 久 敬	浦 島 創
" (ディケア)			大 西 良 ⑯
小 児 科	柳 井 文 男	西 尾 健 ⑭	井 上 貴 仁 ⑯
外 科 第 一	田 中 伸 之 介 ⑤	松 尾 勝 一 ⑪	緒 方 賢 司 ⑯
外 科 第 二	白 石 武 史	前 川 隆 文 ②	星 野 誠 一 郎
整 形 外 科	檜 田 伸 一	佐 伯 和 彦 ⑮	城 島 宏 ⑯
形 成 外 科	木 下 浩 二 ⑯	白 岳 靖 久 ⑯	藤 田 忠 義 ⑯
脳 神 經 外 科	阪 元 政 三 郎 ⑧	野 中 将 ⑯	継 仁 ⑧
心 臓 血 管 外 科	芝 野 竜 一 ⑯	林 田 好 生 ⑯	竹 内 一 馬 ⑯
皮 膚 科	徳 丸 良 太 ⑯	古 村 南 夫	吉 田 雄 一
泌 尿 器 科	田 丸 俊 三 ⑨	入 江 慎 一 郎 ⑯	納 富 貴 ⑯
産 婦 人 科	井 上 善 仁	吉 里 俊 幸 (3東)	江 本 精
"		辻 岡 寛 ⑯(3北)	
眼 科	大 里 正 彦 ⑨	木 村 亮 二 ⑯	近 藤 寛 之
耳 鼻 咽 喉 科	今 村 明 秀 ⑪	柴 田 憲 助 ⑨	坂 田 俊 文 ⑯
放 射 線 科	秋 田 雄 三	高 良 真 一 ⑯	木 村 史 郎 ⑯
麻 醉 科	真 山 崇	廣 田 一 紀	平 田 和 彦 ⑯
歯 科 口 腔 外 科	豊 福 明	喜 久 田 利 弘	梅 本 丈 二
病 理 部	久 野 敏		
臨 床 検 查 部	大 久 保 久 美 子		
輸 血 部	熊 川 み ど り		
救 命 救 急 センタ一	益 崎 隆 雄 ⑪	喜 多 村 泰 輔 ⑯	
総合周産期母子医療センター		雪 竹 浩 ③	
[ 筑 紫 病 院 ]			
筑紫病院(総医局長)	東 大二郎 ⑯		
内 科 第 一	山 之 内 良 雄 ⑦	八 尋 英 二 ⑯*	浦 田 秀 則 ③
内 科 第 二	二 宮 寛 ②*	二 宮 寛 ②	二 宮 寛 ②
消 化 器 科・内 視 鏡 部	植 木 敏 晴 ⑧	宗 祐 人 ⑫	八 尾 建 史 *
小 児 科	喜 多 山 昇 ⑧	深 町 滋 ⑯	喜 多 山 昇 ⑧
外 科	東 大二郎 ⑯	閔 克 典 ⑯	紙 谷 孝 則 ⑯
整 形 外 科	伊 崎 輝 昌	古 賀 崇 正 ⑯	伊 崎 輝 昌
脳 神 經 外 科	堤 正 則	相 川 博	風 川 清
泌 尿 器 科	石 井 龍 ⑤	平 浩 志 ⑯	石 井 龍 ⑤
眼 科	佐 川 卓 司	佐 川 卓 司	佐 川 卓 司
耳 鼻 咽 喉 科	宮 城 司 道 ⑨	池 田 宏 之 ⑯	菅 村 真 由 美
放 射 線 科	中 島 力 哉 ⑯		
麻 醉 科	堀 浩 一 郎 ⑯		
病 理 部	原 岡 誠 司		
救 急 部	三 原 宏 之 ⑨		

## 訃 報

平山 泰一郎 様 (13回生) 平成16年7月 9日ご逝去  
豊島 学 様 ( 7回生) 平成16年9月13日ご逝去  
大蔵 元 様 ( 7回生) 平成16年9月20日ご逝去

[お願い] 上記の方々とご親交のあった方は同窓会事務局宛追悼文をお寄せ下さい。会報に掲載致します。

## 事務局連絡

下記の方々のご住所、ご勤務先などご承知の方は、恐れ入りますが事務局宛ご教示戴けませんでしょうか。お願いします。

金谷 通 (2回生) 佐藤 輝昭 (5回生) 小貫 圭介 (10回生)  
竹中 幸治 (12回生) 木下 晴美 (13回生) 久米 昌子 (13回生)  
本田 啓二 (13回生) 陳 美智 (15回生)

## 編 集 後 記

小生のデスク（福岡大学第1外科医局）の窓から左斜め方向に油山が見渡せる。そのずっと手前には福岡大学第2記念会堂がみえ、脇には工事用の鉄板で隔絶された一角がある。これは新規建設中の環状線工事現場である。さらに医学部玄関から病院玄関へと歩を進めると烏帽子池の傍らには、ほぼ工事が終了した地下鉄駅（福大前駅）の出入り口がその開通を待っている。

大学を離れ永い年月の経った同窓生の方々には、想像を絶する母校近郊の変貌であろう。時は確かに流れ、素晴らしい歴史と伝統が着実に築かれていく。福岡大学病院もその一部の新築構想がやっと表面化してきた。同窓生師弟の入学も年々増加している。環境も病院そして人材も、確かに新しい時代へと変貌しつつある。同窓生として今何ができるか、ちょっと立ち止まってもう一度考え方直してみたい心根にかられる今日この頃である。この同窓会誌がそんな気持ちをかき立てる、そして心安らげる懐かしいアルバムとして役立ってほしいと願って止まない。

広報担当：田中伸之介（文責）、武末佳子、立川 裕、喜多村泰輔

## 鳥帽子会会報第37号

発行日 平成16年11月15日

発行人 高木忠博

編集人 田中伸之介

発行所 〒814-0180

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話 092-865-6353(直通)

092-801-1011(代表)

内線 3032

FAX 092-865-9484

E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)

福岡市中央区長浜2-1-30

電話 092-711-7741

FAX 092-711-7901